

右之通り相違無之候也

年 號 月 日

戶 長 姓 名 印

備考

軍人軍屬違警罪處分例

朕陸軍軍人軍屬違警罪處分例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治十九年五月二十日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第四十四號

陸軍軍人軍屬違警罪處分例

第一條 陸軍軍人軍屬ノ犯シタル違警罪ハ違警罪即決例ニ依リ憲兵部ニ於テ其處分ヲ爲シ憲兵設置ナキ地ニ於テハ警察署ニ於テ其處分ヲ爲スヘシ

第二條 憲兵部若クハ警察署ニ於テ被告人ヲ留置シタルトキハ直ニ其所屬ノ長官若クハ隊長ニ通知ス可シ

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ軍法會議ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得其裁判管轄ハ陸軍治罪法ニ從フ

第四條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ違警罪即決例第五條ニ記載シタル期限内ニ其理由ヲ記シタル書面ヲ即決ノ言渡ヲ爲シタル憲兵部若クハ警察署ニ差出ス可シ

第五條 憲兵部若クハ警察署ニ於テ前條ノ書面ヲ受領シタルトキハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ管轄軍法會議ノ所管司令官ニ送致ス可シ

第六條 軍法會議ニ於テ被告人ノ訊問ヲ要セサルモノト認ルトキハ書面ニ依リ其裁判ヲ爲スコトヲ得

第七條 即決ノ言渡確定シ若クハ正式裁判ノ言渡ヲ爲シタルトキハ憲兵部警察署軍法會議ヨリ被告人所屬ノ長官若クハ隊長ニ其執行ヲ囑託スルコトヲ得

第八款 軍馬輸送

○陸軍軍馬輸送ノ途中發病ノ節取扱

○乙第六拾四號 (明治十八年六月十九日)

戶 長 役 場

陸軍軍馬輸送ノ途中發病等ノ節ハ左ノ各項ニ據リ取扱ヘシ此旨相違候事

第一項 軍馬輸送ノ途中ニ於テ馬匹疾病若クハ傷痕ヲ生シ歩行ニ堪ヘ難クシテ其取締ヨリ治療日數ヲ豫定シ其地戶長ニ預ケ方ヲ協議スルトキハ戶長ハ之ヲ確實ナルモノニ預ケ豫定期日ニ至レハ(期日内ト雖トモ全快スルトキハ直ニ出發セシム)馬夫ヲ雇ヒ直ニ鎮臺ニ送致セシムルコトヲ保シ取締ニ左式ノ受書ヲ出スヘシ
但馬匹預ケ中ハ飼料並ニ手當トシテ一日金三拾五錢以内ヲ給シ其出發後ハ馬匹

旅籠料金三拾錢雜費金九錢其他馬夫給料及ヒ旅費トシテ一日金七拾錢以内(里程六里乃至八里詰トス)ヲ以テ鎮臺到着ノ日迄之ヲ給シ歸路ハ別ニ給スルナシ

受書式

軍馬預リ受書

一馬名

一寸尺

一毛色

一年齡

右何症ニ罹リ當町(村)ニ於テ何週間治療ヲ加ヘ全快ノ見込ニヨリ御預ケ相成候コ付テハ快氣ノ上何鎮臺ニ差立方取計可申右相違無之候也

縣郡町(村)戸長

年 號 月 日

姓 名 印

何 鎮 臺

官 姓 名 殿

第二項 前條ノ馬匹豫定期日ニ至リ尙ホ歩行ニ堪ヘ難キトキハ戸長ハ更ニ治療期日

ヲ豫定シ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ其旨鎮臺ニ申出可シ又出發後途中ニ於テ再ヒ發病歩

行シ難キトキハ馬夫ヨリ其地戸長ニ申出シメ其地戸長ハ速ニ獸醫ヲシテ治療ヲ加ヘシメ其旨電報ヲ以テ鎮臺ニ申出指揮ヲ受クヘシ

但其治療滞在中ハ馬匹旅籠料及ヒ雜費ノ外尙ホ馬夫給料手當トシテ一日金四拾錢ヲ給スヘシ

第三項 馬匹ノ病定到成廢疾ニ歸ス可キ者ト獸醫診斷シ確實ナルトキハ取締出發後ハ其地戸長ヨリ電報ヲ以テ之ヲ鎮臺ニ具申賣却又ハ撲殺ノ處分ヲ請フヘシ若シ急症ニシテ斃死セシトキハ獸醫ヲシテ其病因ヲ診斷セシメ賣却又ハ埋没シ其事由ヲ鎮臺ニ具申ス可シ

但斃死セシ馬匹ハ成ルヘク之ヲ賣却シ其代價ニ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ上納ス可シ若シ傳染病ニテ賣却ス可カラサル者又ハ其他ノ事故ニテ買取者ナキトキハ一頭ニ付金三圓以内ヲ以テ埋没又ハ燒棄ス可シ

第四項 病馬ノ診察料藥價并ニ馬匹預ケ中及ヒ出發後ノ費用ハ其治療ノ日數ト旅行ノ里程ニ應シ取締ヨリ預シメ之ヲ其地戸長ニ交付スルヲ以テ戸長ハ後日決算ヲ爲シ之ニ現證書ヲ添ヘ鎮臺ニ送呈シ其費用ニ關スル證書類ニハ總テ戸長之ニ檢印ス可シ又取締等途中ニ於テ己ムヲ得サル事故ヲ生シ軍馬宿泊指定表ノ通行行スル能ハス爲メニ戸長ノ證印ヲ請フトキハ戸長ハ事實取糺ノ上該表ノ裏面ニ其事由ヲ記シ之ニ檢印ス可シ

○第九款 行軍演習

○行軍演習ニ際シ通報式ヲ談アル節取扱
○乙第九十七號 (明治十八年九月廿九日)

郡 役 所
戸 長 役 場

行軍演習施行ニ際シ舍營其他演習ニ交渉事件ヲ該隊ヨリ直接通報或ハ示談有之候節
ハ不都合無之様取計フヘシ此旨相達候事

○第十款 兵籍ニ係ル帳簿

○兵籍ニ係ル帳簿臨時檢閱
○丙第四百號 (明治十六年十一月十九日)

郡 長
戸 長

兵事ノ儀ニ就テハ時々ノ布告布達モ有之兵籍ニ係ル帳簿類ハ整理ノ管ニ候處今日尙
未タ精確ナラサル向キモ有之哉ニ相聞右ハ平常執務ノ差支ノミナラス或ハ不時ノ需
ニ應シ難キ場合等有之候テハ實ニ不相濟次第ニ付自今属官ヲシテ點檢セシムル儀ハ
勿論陸海軍軍人ニ於テモ臨時檢閱可有之候條一層精密ニ注意シ不都合無之様整理可
致置此旨相達候事

○兵籍帳簿異動届出

○丙第四百五號 (明治十六年十一月十九日)

戸 長

丙第四百四號ヲ以テ相達候趣モ有之候得共目下事務多端ニ際シ兵籍簿帳ノ整理ハ煩雜
ノ業ト雖トモ一日モ忽カセニヌヘカラサル儀ニ付右ハ變遷異動ノ加除精密ニ調査シ
別表雛形ニ倣ヒ翌月五日限り取纏メ郡役所へ可届出此旨相達候事

○第廿四章 海軍

○海軍下士旅行證票規則

○乙第十五號 (明治十一年十一月二十九日)

區 戸 長 村 市 長

下士以下旅行證票規則左之通海軍省ヨリ被相達候條此旨相達候事
旅行證票規則

第一條

一海軍下士以下公用並私用ト雖モ允許ヲ得旅行スル者ハ總テ書式ノ旅行證票ヲ授與
シ公命ヲ帶ヒ或ハ公允ヲ得ルノ証トナスヘシ
但本人歸投ノ上ハ直ニ還納スヘシ
第二條

一 証票ハ本管廳 鎮守府 兵學校等ノ印ヲ押シ豫テ諸艦船營長ニ渡置キ本人授與スルトキ其艦船營等ノ印ヲ割押シ長或ハ副長之レニ記名調印スル者トス

第三條

一 旅中若シ病氣或ハ天災地變等ニテ不得止滞在スルトキハ該地郡區戶長ニ証票ヲ示シ而シテ右証票裏面宿泊証書ノ部ニ其事由月日等ヲ記載調印ヲ受ケ尤病氣ハ該地醫師ノ診斷證書ヲ添フヘシ

但病氣ノ者ハ海軍醫官有之地方ニ於テハ必ス該醫官診斷證書ニ限ルモノトス

第四條

一 該地方ニ到着スレハ直ニ該地ノ郡區戶長ニ証票ヲ示シ宿泊証書ニ着發ノ月日ヲ記載調印ヲ受クヘシ

但事故アリ允許ヲ得延期滞在スルトキハ第三條ノ手續ヲナスヘシ

第五條

一 証票ヲ萬一亡失スルトキハ速ニ其事由ヲ該地郡區戶長ニ届ケ再請ノ願書ニ與印ヲ受ケ之レヲ各所轉廳艦船ニ送呈請求スルトキハ更ニ送付スヘシ尤歸投ノ時日ニ迫リ再請出願スル能ハサルカ又ハ送付ナキ内滿期ニ至リ候節ハ該地郡區戶長ノ證書ヲ以歸投スルヲ得ヘシ

但其手續ハ第三條第四條ニ同シ

第六條

一 公務旅行ノ者海軍所轉廳設置ノ地方ニ在テハ該廳ニ於テ第三條以下ノ手續ヲナス者トス尤病氣ハ海軍醫官ノ診斷書ヲ添フヘシ

但允許旅行ノ者ト雖モ病氣ノ者ハ第三條但書之通タルヘシ

旅行証票雛形 ()ハ朱字

西ノ内横折

第(何)號(艦船營印章)	(本籍)
旅行証票	(職名何某)
	(年齢)
丈ケ 鼻 口 顔 色 痘痕 眼 別徵	
右 (何)御用ニ付何月何日何地出發何地ニ旅行爲致候事	
(何々ニ付何月何日ヨリ何月何日迄何地(歸省旅行)允許候事)	
明治 年 月 日	
(本管轄印章)	
(何艦船營長或ハ副長)	
(官姓名印)	

宿泊証書雛形

旅行証票裏面

此証書若シ証票裏面

空紙不足スルトキハ

郡區戶長ニ於テ適宜

繼足シ証據トスヘキ

割印チナスヘシ

艦船營印章
宿泊証書

(何年何月何日何地
ニ向テ發程)

(何月何日何地ニ着
ス)

(何地)
(郡區戶長印)

(何月何日ヨリ何日
迄病氣或ハ川支ニ
由テ何方滞在
(前同斷)

(何年何月何日發
程)
還

(書法同上)

○海軍服役者ニテ人民所有ノ船舶ニ乘組ム者有之候ハ其本籍寄留及ヒ
○茨城縣令乙第六號 (明治十九年十月廿七日)

郡 役 所
戶 長 役 場

會テ海軍服役ノ者ニシテ管下人民所有之船舶ニ乘組ム者有之候ハ其本籍寄留及ヒ
姓名詳細取調ヘ毎年四期三月六月九月十二月戶長ハ郡役所ヘ届出テ郡長ハ左ノ雛形
ニヨリ届出ヘシ、但明治十六年十二月丙第百十九號同長甲第四十六號達ハ廢止ス
雛形

船種	本籍	寄留	官職	姓名	年齢
西洋形漁船或ハ帆船前	何縣何國何郡村番地	何縣何國何郡村番地	服役中ノ官名ヲ記ス	何ノ誰	何年何ヶ月
和船	同上	同上	同上	同上	同上
何々	同上	同上	同上	同上	同上

○海軍下士卒戶籍上異動届出

○縣令甲第四十三號 (明治十九年十二月十六日)

海軍下士卒(徵兵ヲ除ク)戶籍上異動ヲ生セシトキハ其都度本縣ヘ届出スヘシ

但本年三月甲第廿三號下士卒結婚ノ儀ハ此限ニアラス

(参照) 十九年三月甲第二十三號海軍下士卒結婚ノ儀ハ自今届出ニ及ハス

○海軍現役兵身上異動届出

○縣令甲第四十五號 (明治二十年六月六日)

徵兵令ニ據リ徵集シタル海軍現役兵ニシテ身上ニ異動ヲ生スルトキハ入營前後ノ別
ナッ戸主又ハ親族ノ者ヨリ届出郡長戸長奥書証印シ入營前ニ係ルトキハ割符ヲ添ヘ
縣廳ヘ差出シ入營後ニ係ルトキハ直チニ横須賀鎮守府ヘ差出スヘシ

○海軍現役兵滿期歸郷ノ節届出

○縣令甲第四十一號 (明治廿一年五月九日)

徵兵令ニ依リ徵集ニ應シタル海軍現役兵ニシテ滿期歸郷スルトキハ當日ヨリ三日以
内ニ其旨戸長ニ届出戸長ハ之ヲ郡長ニ届出ヘシ

第二款 海軍教授役警吏筆記採用

○海軍艦内教授役警吏筆記採用規則

○甲第八十號 (明治十八年八月六日)

海軍艦内教授役警吏筆記採用規則別紙ノ通被相定候條此旨布達條事

海軍艦内教授役警吏筆記採用規則

第一條 海軍艦内教授役海軍警吏海軍筆記ニ欠員アル時ハ此規則ニ依リ採用ス

第二條 海軍艦内教授役海軍警吏ハ鎮守府ニ徵募ス但徵募ヲ要スルトキハ鎮守府豫
メ之ヲ廣告ス

第三條 海軍艦内教授役海軍警吏海軍筆記ハ海軍部内若クハ華士族平民中志願ノ者
ヨリ身体検査學科試験ノ上採用ス

第四條 志願者ヲ採用スル時ハ海軍艦内教授役介海軍警吏補海軍三等筆記等ニ任ス
及第者採用ス可キ人員ヨリ多キ時ハ優等ノ者ヨリ順次之ニ任ス但之ヲ任用スル時
ハ其本籍戸長ヨリ本人ノ戸籍明細書ヲ出サシム

第五條 志願スルヲ得ルモノハ左ノ年齢ニ適合スル者タルヘシ

一 海軍艦内教授役海軍筆記ハ二十年以上三十五年以下

二 海軍警吏ハ二十年以上三十年以下

第六條 左ニ記載シタル者ハ志願スルヲ得ス

一 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三 身代限リノ處分ヲ受ケ其辨償ヲ終ラサル者

第七條 志願者ハ先ツ身體ノ検査ヲ受ケシメ合格セサル者ハ學科試験ヲ行ハス

第八條 學科試験ノ科目ハ左ノ如シ

艦内教授役

講義 漢文 歷

警吏

讀書 漢文 歷 史類

筆記

作文 漢文 通俗文

數學 平算 代數

書法 楷行 草

作文 公用文 通俗文

算術 加減 乘除

法律 講義 刑法 治罪法

讀書 漢文歷史類及 作文 公用文通俗 算術 平 書法 楷行 草

第九條 身體検査ハ鎮守府或ハ東京ニ於テ海軍尉官一名會同シ海軍醫官之ヲ行フ
第十條 學科試験ハ鎮守府或ハ東京ニ於テ海軍尉官二名會同シ之ヲ行フ
第十一條 海軍部内ノ志願者ハ第一號ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ所轄長ヲ經テ之ヲ鎮守府ニ出ス可シ

第十二條 華士族平民ノ志願者ハ第二號ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ所轄府縣廳ヲ經テ之ヲ鎮守府ニ出ス可シ

第一號願書式

何官奉職願

私義何官奉職志願ニ付御検査ノ上御採用被下候様其筋へ御申立被下度別紙履歷書相添此段願出候也

年月日

何官(雇)

姓名印

何職官姓名殿

前書之通願出候條御試験之上御取捨有之度候也

年月日

何職官

姓名印

何鎮守府長官官姓名殿

第二號願書式

海軍何官奉職願

私義海軍何官奉職志願ニ付御検査ノ上御採用被下候様其筋へ御申立被下度別紙履歷書相添此段願出候也

年月日

姓名印

府知事 縣令 姓名殿

前書之通願出候條御試験之上御取捨有之度候也

年月日

府知事 縣令

姓名印

何鎮守府長官官姓名殿

履歷

姓名印

何年何月生

年號月何年何箇月

一何年何月何日何學校卒業或ハ何奉職

一何年何月何日何轉職其他右ニ準シ記載ス可シ

右者海軍艦内教授役警吏筆記採用規則第七條ニ抵觸候者ニ無之且其出生年月ニ相

違無之候也

年 月 日

戸籍明細書

戸長 姓 名 印

本管族籍

氏名 肩書ニ戸主カニ三男カ
養子カ明記スヘシ

出生ノ年月日

生國地名

本籍住所

寄留住所 全戸カ單身カ
明記スヘシ

家族人名及其誕辰 父母妻子兄弟等全戸ノ者總テ之ヲ
記ス但父母ノ實養ヲ詳ニス可シ

父 氏名 何年何月何日生

母 同 兄 同氏 上名

弟 氏名 同上

姉 同 妹 同 上名

其他右ニ準テ

前書之通相違無之候也

戸長 姓 名 印

○第三款 結婚

○甲第百拾四號 (明治十八年十一月二十一日)

海軍武官結婚條例別紙之通定メラル

右布達候事

海軍省乙第拾四號

府 縣

海軍武官結婚條例左ノ通被定候條此旨相達候事

明治十八年十一月十三日

海軍卿伯爵川村純義

海軍武官結婚條例

第一條 凡ソ軍人ノ結婚セント欲スル者將官并ニ同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ准士官
以上ニ在テハ海軍卿ノ許可ヲ受ケ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受ケヘシ

第二條 少尉補機關士補軍醫補主計補ハ年齢二十五歳以上ニ至ラサレハ結婚スルコ
トヲ許サス

第三條 下士卒ニシテ左ニ掲クル者ハ結婚スルコトヲ許サス

- 一 年齢二十五歳未満ノ者
- 一 若水兵若火夫
- 一 徵兵令ニ據リ徵集シタル現役兵

第四條 娶ルヘキ婦人ハ行狀端正ニシテ年齢十六歳以上ノ者タルヘシ

第五條 結婚ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ第八條第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ身元證書ヲ添テ出願スヘシ

第六條 將官并ニ同等官ノ願書ニハ海軍卿准士官以上ノ願書ニハ所管長官下士卒願書ニハ所轄長與書證印スヘシ

第七條 結婚ヲ整ヘタル時ハ其旨速ニ届出ヘシ

第八條 結婚願書式并ニ身元證書式ハ左ノ如シ

第一號書式

結婚願

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)

何番地華士族平民

何某何女(姉)(妹)

某

年月日生

年月何年何ヶ月

某 儀

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致度候間御許可被下度別紙身元證書相添此段奉

願候也

年 月 日

官(職) 姓 名 印

太政大臣(海軍卿)(所管長官)宛

前書ノ趣篤ト取調候處不都合無之ニ付御許可相成度候也

海軍卿(所管長官)(所轄長)

官 姓 名 印

第二號書式

身元證書

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)

何番地華士族平民

何某何女(姉)(妹)

某

年月日生

年月何年何ヶ月

右ハ行狀端正ノ者ニシテ年齢モ前書ノ通相違無之候此段致保證候也

何府(縣)何國何郡(區)何町(村)

戸 長

姓名印

○海軍下士結婚届出ニ及ハヌ
○甲第二十三號 (明治十九年三月二日)

海軍下士結婚ノ儀ハ自今届出ルニ及ハサル旨其筋ヨリ達相成候條此旨布達候事

○海軍歸休兵豫備兵後備兵結婚願書差出方
○縣令甲第五十三號 (明治二十一年六月二日)

海軍歸休兵及豫備兵後備兵ノ結婚願書ハ直ニ鎮守府司令長官ニ差出ヌヘシ

○第四款 軍艦乘員休暇

○海軍艦船乘員休暇

○丙第十三號 (明治十六年二月八日)

戸長役場

海軍艦船乘員休暇條例第三十條即チ左ノ明文ニ依リ歸郷休暇ヲ許可セラレタル者ニハ別紙給與方ニ照シ食料旅費等支給相成候條此旨相達候事

海軍艦船乘員休暇條例

第三十條 服役滿期ノ者ニシテ再役ヲ願フ者ニハ其際再役年數一ケ年ニ付一週日ノ

割ヲ以テ鎮守府長官或ハ艦隊司令官ヨリ歸郷休暇ヲ許スヘシ但十週日ヲ超過ス可ク

○第五款 扶助料

○舊海軍退隱令ニヨリ退隱料並ニ扶助料ヲ受ケル者金額授受ノ件

○甲第四十八號 (明治十七年九月二十日)

舊海軍退隱令ニ據リ退隱料并ニ扶助料ヲ受ケル者其金額授受ノ節自今戸長ノ証セル本人生存書(孤兒ハ年齡書)及ヒ金額受領証書ヲ差出シ右証書引換ニ該金額受領ス可シ此旨布達候事

但シ退隱料及扶助料ヲ受ケル者其金額受領ノ地ヲ轉セントスルトキハ金額交附期ノ三個月前ニ願出ヘシ

○海軍下士以下家族扶助金ニ關スル事務

○甲第二十九號 (明治十九年三月廿七日)

海軍下士以下家族扶助金ニ關スル事務及其支給ハ自今横須賀鎮守府主管ト相定右ニ關スル事項ハ總テ同府ヘ申出ヘキ旨達セラル

右布達候事

(參照) ○海軍下士卒家族扶助金給與規則

○海軍省令第三號 (明治二十年一月二十六日)

海軍下士卒家族扶助金給與規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

海軍下士卒家族扶助金給與規則

第一條 海軍志願兵徵募規則ニ依リ出身シタル者現ニ下士卒ノ職役ニ服スル間ハ
 家族扶助金トシテ其家族ヘ一ケ年ニ金拾圓ヲ支給ス但單身戸主タル下士卒ノ附
 籍者及單身戸主タル下士卒ヲ附籍セシメタル者ニハ支給ノ限ニ在ラス

第二條 現役兵員ニ編入及歸休退職退役或ハ轉免死亡等其他現役一箇年ニ滿タサ
 ル時ハ其月數ニ應シ月割ヲ以テ支給ス

第三條 海軍刑法第百十九條第百二十條第百二十三條第百三十四條第百三十五條
 ノ罪ヲ犯シタル者ハ其翌月ヨリ刑期滿限ノ前月マテ支給ヲ停止ス

第四條 地方廳ニ於テ扶助金下附ノ際家族失踪等ノ事故ニ依リ六箇月以上受領者
 ナキ時ハ其金額ノ支給ヲ停止ス

第五條 養子又ハ復籍等ノ事故ニ依リ甲乙兩家ニ跨ル時ハ其月ノ現日數ニ割合ヒ
 送籍シタル前日迄ハ甲家族ニ支給シ其當日ヨリ乙家族ニ支給ス

第六條 毎年支給ノ金額ハ會計年度ニ依リ前半年後半年ノ二期ニ分テ前半年分ハ
 其年十一月ニ後半年分ハ翌年五月ニ地方廳ニ於テ下附ス

第七條 甲府縣下居住ノ者乙府縣下ニ移住スルコトアルモ毎年三月一日ヨリ前年
 度後半年分下附ノ日マテ及九月一日ヨリ其年度ノ前半年分下附ノ日マテハ乙府
 縣ヘ該金下換ノ出願ヲ許サス各一期分ハ甲府縣廳ニ於テ下附スルモノトス

二十年
海軍省
令第二
十九號
追加ノ
面

第八條 明治十七年九月六日以前ヨリ續テ兵役ニ服スル者及志願兵徵募規則ニ依
 リ同日以前ニ徵募シタル者ハ一箇月金壹圓七十五錢ヲ支給ス但其後ニ家族ヲ得
 タルモノハ第一條ニ依ル

第九條 第八條ニ依テ給スルモノ第二條及第三條ノ場合ニ在テハ其月十五日前後
 ノ區分ヲ以テ半額又ハ全額ヲ支給ス其他ハ前各條ノ支給法ニ依ル
 但服役滿期ニ至リ再役シタル當月ハ十五日前后ヲ以テ區分セシ舊額ヲ給シ其
 翌月ヨリ新額ヲ給ス

○第廿五章 戶籍

○第一款 願屆

○應嫡養子及後夫前夫ノ跡相續出願

○第貳百拾七號 (明治九年六月二十日)

一實男子アルモノ養子ヲ以テ相續人トシ又ハ男女子アルノ寡婦後夫ヲ迎ヘテ前婦ノ
 跡相續人ト定ムル等ハ難相成定規ニ候處管下村落ニ至リテハ從來之慣習ニテ實男
 子有之ヲ闔キ長女ヘ婿ヲ迎ヘ相續人トシ實男子ヲ以テ他家ノ養子トシ或ハ分家ス
 ルモノ往々有之不都合ノ事ニ付自今決シテ不相成候尤本分家之間血統ヲ絶ツニ至
 リ候節ハ詮議之次第モ有之候條情實詳記雙方親族連印ノ上可願出候且有子之寡婦
 マリトモ極貧或ハ其子幼少又ハ後見ニ可相立者モ無之難澁之者ハ其情實ニ依リ詮

議候條是又事由詳記親族運署ノ上可願出事

但既往ノ儀ハ引直ニ不及候事

一前條實子孫アリト雖モ幼少或ハ病痾癘疾ニシテ現實極貧又ハ老病等ニテ生活難相立不得止養子致候者ハ親族連印ヲ以テ願出猶又實子ト雖モ父ト職業ヲ異ニスル等無據事故有之他家相續之儀本人志願ニ出ル分ハ本人願書及ヒ親族連印ノ書面相添可願出事

一前兩條共士族之儀ハ一般難聞届候事
右之通布達候事

○奏任以上ノ官ニ任セラレ非役ニ居ルト雖モ死去ノ節届出

○丙第五十五號 (明治十一年六月十三日)

士民ヲ論セス曾テ奏任以上ノ官ニ被任現時非役ニ居ルト雖モ死去候節ハ自今該扱所ヲ經由シテ直チニ第一課ニ可届出此旨布達候事

○戶籍ニ屬スルニ届書取扱順序

○乙第拾四號 (明治十二年二月六日)

明治十年丙第九拾壹號ヲ以戶籍上ニ關スル届書取扱順序相達置候處今般左之通改定本月ヨリ施行候此旨布達候事

戶籍ニ屬スル届書取扱順序

人民一般ノ出生死亡隱居家督相續嫁娶並婿養子遣リ取或ハ離縁及轉籍寄留戶主換等總テ戶籍上ニ屬スル届ハ郡役所ニ出願許可ヲ得シモノハ指令必ス遺漏ナク其時々士民ヨリ戶長ニ届出戶長役場ニ於テハ其都度村(町)内ノ戶籍面ニ加除致置翌月五日限ノ前月分ノ加除届ヲ造リ從來ノ加除届書式ノ通其郡役所ニ差出シ該役所ニ於テハ備置ケル戶籍面ニ參照加除ノ上右届書ヲ其月廿日限リ所管警察署ニ送付シ該署ニ於テハ三十日限戶籍面ニ加除ノ末其郡役所ニ返付スルモノトス

○士族家督相續養子貫籍替出願ニ及ハス

○乙第貳拾四號 (明治十二年二月二十四日)

士族家督相續養子貫籍替ノ儀是迄所屬郡役所ニ出願シ來リ候處自今出願ニ不及直ニ戶長ニ可届出此旨布達候事

但廢嫡等特許ヲ經ヘキモノハ從前ノ通

○士族家督相續養子貫籍替等送籍ノ儀郡役所ニ届出

○丙第拾六號 (明治十二年四月一日)

士族家督相續養子貫籍替之儀ニ付本年乙第貳拾四號ヲ以テ布達候ニ付テハ右送籍等ノ儀總テ戶長役場ニ於テ取扱家督相續共其時々處屬郡役所ニ可届出此旨相達候事
但本年乙第拾四號布達ニ準テ加除届出候義ハ從前之通

戶長

○分家入夫再婚復籍等出願ニ及ハス

○乙第三百二十九號 (明治十五年九月廿一日)

士族平民ノ家族分家絶家再興願及ヒ祖父母父母等隱居ノ後其身情願ニヨリ更ニ他ニ入夫再婚或ハ實家復籍又ハ養子女トナル等ノ儀從來出願致シ來候處自今不及其儀直チニ戸長役場ニ届出ヘシ此旨布達候事

○公使館領事館又ハ居留地外國人所有家屋ニ寄留ノ者届出及通報等ノ件

○縣令乙第二十一號 (明治十九年十二月廿七日)

郡 役 所
戸 長 役 場

本年内務省令第九號第六條ニヨリ寄留ノ届出チナス場合ニ於テ公使館領事館又ハ居留地外國人所有ノ家屋ニ寄留シタルモノハ本人幼者ハ後見人又ハ親族ノ届出ノミヲ以テ其手續ヲ了タルモノトシ其第七條寄留地ヲ去リ本籍地ニ復歸又ハ更ニ他ニ寄留シタル届書ヲ本籍戸長ニ於テ受領シタル時ハ其旨該戸長ヨリ前寄留地ノ戸長ニ通報スヘシ

○離縁ノ家女ヲ附籍シ及附籍分離出願ニ及ハス

○乙第五百五十六號 (明治十五年十二月六日)

一戸ヲ疊ミ又ハ離縁ノ家女ヲ他ニ附籍シ或ハ附籍者分離ノ義ハ士族平民共自今不及

出願候條其時々戸長役場ニ可届出此旨布達候事

但明治十一年丙第五十四號布達ハ廢止ス

○家族ニ係ル附籍者取扱方

○乙第三十號 (明治十九年二月廿六日)

郡 役 所
戸 長 役 場

家族ニ係ル附籍者取扱方自今左ノ通り相心得從前既ニ原籍ヲ刪除シタルモノハ此際渾テ引直スヘシ

一 家族ノ附籍ハ送籍ヲ爲サス附籍主ノ籍末ニ附記シ原籍戸主ノ續柄ヲ肩書シ其取扱方ハ渾テ寄留者同様トス

一 從前既ニ送籍セシモノ附籍地ニアリテハ前項ノ如ク戸籍登記シ舊送籍証ハ原籍地ニ返付スヘシ

一 原籍地ニアリテハ更ニ其氏名ヲ戸籍ニ登記年月日某方附籍ノ旨冠書シ舊受籍証ハ附籍地ニ還付スヘシ

右相達候事

○第二款 簿 籍

○戸籍送籍ノ際徴兵ニ關スル廉々記入等

○丙第五十九號 (明治十五年九月十三日)

戶長

戶籍送籍証ノ儀ハ徵兵事務上關係不少モノニ付自今他ハ轉籍ノ者全戸ハ其戶籍寫ヲ添ヘ單身或ハ家族ノ幾人ニ係ル分ハ本人共戶籍冒頭ニ登記アル事項ハ勿論其他徵兵ニ關スル廉々ハ(別紙事項明)必ス送籍証ヘ記入可致且全戶轉籍者ノ中徵兵令改正後徵兵年齡以後ノ嗣子及養子(嗣子)或ハ相續人等ヲ廢シ他ヘ送籍セシモノ有之キハ該戶籍寫結尾ニ其姓名年齡廢嫡ノ事由年月日并送籍先キ等詳細朱記可致此旨相達候事但入籍者受領証之儀モ他日ノ証左ト可相成モノニ付姓名年齡并入籍先等詳細記載可致事

- 一何年徵兵相當年月日檢查濟除役
- 一何年徵兵相當何事故ニ付年月日國民軍ノ外免役
- 一年號月日陸軍士官學校生徒入學及海軍何生徒又ハ兵器局并造船所定雇職工
- 一年號月日陸軍常備何ノ兵第何番海軍水(火)夫在役中戰(病)死又ハ何務從事中(疾病)(負傷)退隱又ハ(豫後)備軍服役中何務ニ起因シ(罹疾)(死没)
- 一年號月日醫術開業免許
- 一年號月日何縣何立師範學校中學校專門學校ニ於テ卒業年月日外國ニ留學ニケ年以

上何學科卒業

- 一年號月日外國留學ニケ年以上何學科卒業
- 一年號月日船長運轉手機關手免許又ハ水(火)夫證明濟
- 一何年徵兵相當何事故ニ付年月日願濟平時免役
- 一年號月日何省附屬官立公立師範學校ニ於テ修業一ケ年課程卒業
- 一年號月日ヨリ何學修業又ハ商用ニテ外國寄留
- 一何年徵兵相當檢査濟身幹定尺未滿又ハ疾病(病後難堪勞役)刑事被告人翌年廻(全何年全上)何年竟ニ平時免役
- 一何年徵兵相當何事故ヲ以テ年月日願濟一ケ年徵集猶豫(全何年全上)全何年竟ニ平時免役
- 一何年徵兵相當罷名稱屆ヲ怠リ先入兵年月日何營所入營
- 一何年相當落籤第一豫備徵兵
- 一何年相當補充兵入營ノ命ナシ第一豫備徵兵
- 一何年相當常備何兵第何番(補充何兵第何番繰揚ケ)何事故ヲ以テ入營延期年月日何營所入營
- 一何年相當定期届出ヲ怠リ先入兵年月日何營所入營
- 一何年相當調查漏年月日何營所入營
- 一何年相當免役料上納願濟年月日國民軍ノ外(或ハ平時)免役

- 一何年相當(詐偽)(身體毀傷)(疾病作為)處分濟先入兵年月日何營所入營
- 一何年相當失踪(他行)先入兵年月日何營所入營
- 一何年相當常備兵(補充兵練揚)年月日何營所入營
- 一何年相當常備輜重輸卒鄉里ニ在テ服役年月日豫備軍編入
- 一何年相當常備軍年月日滿期豫備軍(滿期後備軍)編入
- 一何年相當常備軍年月日教導團生徒入學年月日伍長軍曹曹長拜任年月日何營所赴任
- 一何年月日滿期後備軍編入
- 一何年月日憲兵或ハ近衛隊編入

○乙第壹號

(明治十九年一月七日)

郡 役 所

戶 長 役 場

○徵兵地ハ全戸寄留ノ者在住地ヲ確メシテ照會ヲナストキ戸籍寫添付

徵兵未行地ハ全戸寄留ノ者在住地ヲ確メシテ原籍戸長ヨリ寄留戸長ハ照會ヲ爲ス

ハハ戸籍寫ヲ添フヘシ

右相違候事

○戸籍表式

○茨城縣令乙第二號

(明治十九年九月三日)

二十二年乙第二
號改十正五第
ノ面

(別紙)

第一 戸口表

明治

年十二月三十一日現在

何郡市役所
何町村役場

郡 役 所

戶 長 役 場

市町村名	本 籍		合 計	現 住 戸 數
	男	女		
再掲町村				
合 計				

一 現住戸數ノ欄ニハ本籍ナル者ト本籍ナラサル者ト又戸主タル者ト戸主タラサル者トヲ問ハヌ渾テ其地ニ現住シテ一世帯ヲ爲ス竈數ヲ記入スヘシ但官舎社寺學校病院製造所等ノ構内ニ居住スルモ別ニ一竈ヲナス者ハ亦一戸トシテ之ヲ記入スヘシ

一 再掲町村ノ欄ニハ本籍人口一萬以上アル町村及本籍人ヲ本トシテ表ノ出ヲ除キ入ヲ加ヘテ現住人口凡一萬以上アル町村ノ本籍人并ニ現住戸數ヲ掲クヘシ

一 一郡役所ニシテ二郡以上ヲ管轄スルモノハ每郡各別ニ調製スヘシ以下同シ

一 用紙ハ美濃紙ニツ折袋綴トス

第二 人口出入表

明治

年十二月三十一日現在

何郡市役所 何町村役場

市町村名	出			入		
	外國行	他府縣出	陸海軍在營	他府縣入	他郡市	寄留
再掲						
合計						

一 一郡役所ニシテ二郡以上ヲ管轄スルモノハ之ヲ合算シテ一欄内ニ記入スヘシ

一 外國行ノ欄ニハ外國ニ行キタル者又他府縣へ出寄留ノ欄ニハ他府縣ニ出テ住スル者又他郡市出寄留ノ欄ニハ縣内ノ他郡市ニ出テ住スル者ヲ記入スヘシ

一 陸海軍在營艦者ノ欄ニハ歸休兵ヲ除キ現ニ陸軍ノ屯營艦船ニアル下士卒傭夫馬丁等ヲ出寄留ト見做シテ記入スヘシ

一 囚人及懲治人ノ欄ニハ囚人ハ檢事ヨリ通知シタル犯人ニシテ未タ刑期ヲ終ラサル者及ヒ懲治場ニ在ル者ヲ出寄留者ト看做シテ記入スヘシ

一 失踪ノ欄ニハ其年十二月三十一日調ノ戸籍ニ現ニ失踪ノ登記アル者ノ員數ヲ記入スヘシ

一 他府縣入寄留ノ欄ニハ他府縣ヨリ本郡市ニ來テ住スル者又他郡市入寄留ノ欄ニハ縣内ノ他郡市ヨリ來テ住スル者ヲ記入スヘシ

一 再掲町村ハ前表ニ掲ケタル町村ヲ云但此町村出入ノ調査ハ他府縣他郡市ノ出入寄留ヲ記載スルハ勿論同郡内ト雖モ其町村ノ外ニ出テ住スル者ハ他郡市出寄留トナシテ町村ノ外ヨリ來リテ住スル者ハ他郡市入寄留トナシテ記入スヘシ

第三 本籍人別表

明治

年十二月三十一日現在

何郡市役所 何町村役場

族籍	戸主		家		族		棄		兒		合	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
計												

一棄兒ハ人ノ養子女トナラサル者ノミヲ掲クヘシ

第四 本籍生年別人口表 明治 年十二月三十一日現在 何郡市役所 何町村役場

生年	無配偶		有配偶		合計	
	男	女	男	女	男	女
明治十九年生						
同十八年生						
同十七年生						
同十六年生						

同十五年生	同十四年生	同十三年生	同十二年生	同十一年生	同十年生	同九年生	同八年生	同七年生	同六年生	同五年生	同四年生

合 計	年 齡 不 詳	元 治 元 年 生	同 元 年 生	同 二 年 生	慶 應 三 年 生	同 元 年 生	同 二 年 生	同 三 年 生

一本表、北海道廳府縣本籍人ノ生年ヲ調査スルモノニシテ其調査ノ年ヲ首トシ以上
 年次ヲ逐々明治慶應元治文久万延安政嘉永弘化天保文政文化享和寛政天明安永
 明和ニ溯リ年號何年生ト列記シ其生レタル年ニ從ヒ配偶ノ有無ヲ類別記入スヘシ

第五 本籍出生死亡及婚姻表

明治 年中 何郡或後所
 何町村役場

五 月	四 月	三 月	二 月	一 月	月次		出生		死亡		合計		死亡	
					公	私	公	私	公	私	男	女	男	女
					男	女	男	女	男	女	男	女	男	女

例へハ明治元年生ノ下欄ヨリ同年一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ出生シタル者ヲ記入スルカ如シ但戸籍編製以前逃亡失踪シ其生年詳ナラサル者アルトキハ年齢不詳ノ欄ニ記入スヘシ

一千島佐渡淡路隠岐壹岐對馬大島(鹿兒島縣)小笠原嶋及伊豆七嶋ハ北海道廳府縣ノ總數表ニ掲ケタルノ外尙ホ本表ニ依リ各一表ヲ製スヘシ

結婚數	離婚數												
	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計	六月	七月	八月	九月	
一本表ハ北海道廳府縣本籍人ノ出生死亡及婚姻ノ總數ヲ記入スヘシ													

一 棄兒ハ生産私生ノ欄ニ記入スヘシ但生月詳ナラサル者ハ推測ニ從テ區別スヘシ
 一 死産ハ妊娠後四箇月以上ニシテ死胎分娩シタル者ヲ記入スヘシ
 一 出生死亡ハ届出ノ月ニ拘ラス其現ニ出生死亡シタル月ニ記入スヘシ
 一 結婚離婚ハ一年中ノ總數ヲ記入スヘシ
 一 結婚ハ婦又ハ婿ヲ迎ヘタル方離婚ハ之ヲ出シタル方ニ就テ記入スヘシ

第六 市街及嶋嶼現住人出生死亡表 明治 年中 何郡市役所 何町村役場

市街名	出生				死亡				合計
	公生	私生	公死	私死	公生	私生	公死	私死	
男									
女									
計									

一本表市街ハ區ノ名稱ノ有無ニ拘ラス現住人口一万以上ノ地ヲ云例ヘハ東京府ノ東京(十五區ヲ合)大阪府ノ大阪(四區ヲ合)愛知縣ノ名古屋石川縣ノ金澤ニ於ケルカ如シ又嶋嶼ハ千嶋佐渡淡路隱岐壹岐對馬大嶋(鹿兒嶋縣)小笠原嶋伊豆七嶋ヲ云フ一本表ハ本籍人ノ其市街又ハ嶋嶼ヨリ他ニ出テ住シテ出生死亡シタル者ヲ除キ他ヨリ其市街又ハ嶋嶼ニ來リ住シテ出生死亡シタル者ヲ加ヘテ調査スヘシ
 一 死産及棄兒ヲ記入スルニハ第五表ノ說明ニ據ル

第七 就除籍送入籍及逃亡失踪表 (本籍) 明治 年中 何郡市役所 何町村役場

除	籍	就	類 別				
			出		男	女	合 計
			明治廿一年中	明治二十年中			
合 計	外國ヨリ入籍者	無籍者	同十七年以前	同十八年中	同十九年中	同二十年中	
			者 洩 届 生				

籍	重籍者	外國へ送籍者	合 計	他府縣へ送籍	他郡市へ送籍	他郡市ヨリ入籍	逃 亡 失 踪
				<p>一 出生届洩ノ五欄ハ明治二十二年ノ調査ニ於テハ二十一年ヨリ十七年迄ヲ記シ二十年ノ調査ニ於テハ二十二年ヨリ十八年マテヲ記スルカ如ク毎年操上シヘシ</p> <p>一 明治十七年以前ノ欄ニハ明治五年戶籍編製ヨリ十七年マテニ出生シテ届洩レタル者ヲ記入スヘシ</p> <p>一 無籍者ノ欄ニハ明治五年戶籍編製ノ時ヨリ無籍ニシテ本年ニ至テ初メテ籍ニ就キタル者ヲ記入スヘシ</p>			

- 一 外國ヨリ入籍者ノ欄ニハ婚姻ニ依リ外國人ノ入籍シタル者ヲ記入スヘシ
- 一 重籍者ノ欄ニハ一人ニシテ兩所ニ本籍ヲ有スルニヨリ一方ヲ削除シタル者ヲ記入スヘシ
- 一 外國へ送籍者ノ欄ニハ婚姻ニ依リ外國へ送籍シタル者ヲ記入スヘシ
- 一 逃亡失踪ノ欄ニハ本年一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ逃亡失踪シタル者ヲ記入スヘシ

第八 耕作及捕魚採藻業戸數 明治 年十二月卅一日現在 何郡市役所 何町村役場

合計	耕作		採藻業		捕魚業	
	自業	兼業	自業	兼業	自業	兼業
	専業	兼業	専業	兼業	専業	兼業
	採藻兼業	採藻兼業	採藻兼業	採藻兼業	採藻兼業	採藻兼業
	合計	合計	合計	合計	合計	合計
	自作	兼業	自作	兼業	自作	兼業
	小作	兼業	小作	兼業	小作	兼業
	合計	合計	合計	合計	合計	合計

一本表ハ明治十九年ヲ以テ第一回トシ爾後六年目毎ニ十二月三十一日ノ現數ヲ調査スルモノトス

一本表ハ華族士族平民タルニ拘ラズ十二月三十一日ニ現ニ耕作業又ハ捕魚採藻業ニ従事スルモノノ戸數ヲ調査スルモノトス但戸數ノ記入方第一表ニ同シ

一本表ハ戸内各人ノ職業ニ拘ラズ該戸ノ首長タル者(戸主タルモノト戸主タラサルモノト)ヲ問ハズノ營ム職業ニ依リ其事實ヲ採集スルモノトス

- 一 該戸ノ首長タル者事故アリテ自ラ家業ヲ營マスト雖モ其家ニ於テ之ニ代ル者アルトキハ尙ホ本表ノ戸數ニ算入スヘシ
- 一 耕作業ヲ専業トシテ自作ト小作トヲ兼ル者又之ヲ兼業トシテ自作ト小作トヲ兼ルモノハ自作小作ノ内重ナル方ニ記入スヘシ
- 一 捕魚採藻業者ニシテ耕作業ヲ自作ト小作トヲ兼ルモノ亦前項ニ同シ
- 一 専業ノ欄ニハ耕作又ハ捕魚採藻ノ業ヲ一途ニ營ムモノヲ記入スヘシ
- 一 耕作業中兼業ノ欄ニハ耕作業ヲ本トスルト否トヲ問ハズ總テ該業ト他ノ業(捕魚採藻業ヲ除ク)トヲ併セ營ムモノヲ記入スヘシ
- 一 耕作業中捕魚採藻兼業ノ欄ニハ耕作業本トシテ捕魚採藻業ヲ兼テ營ム者ヲ記入スヘシ
- 一 捕魚採藻業中耕作兼業ノ欄ニハ捕魚採藻業ヲ本トスルト否トヲ問ハズ總テ該業ト他ノ業(耕作業ヲ除ク)トヲ併セ營ムモノヲ記入スヘシ
- 一 捕魚採藻業中耕作兼業ノ欄ニハ捕魚採藻業ヲ本トシテ耕作業ヲ兼テ營ムモノヲ記入スヘシ

(参照)

○出入寄留籍整頓ノ件
 ○縣令乙第拾號 (明治十九年十一月卅日)

郡 役 所
戸 長 役 場

明治十九年内務省令第十九號施行以前出入寄留ノ届出ヲナシ現ニ張簿ニ記載アル者本籍地ニ於テハ出寄留者ノ留守引受人又ハ其戸主入寄留地ニ於テハ地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スルモノヲ取調出入寄留簿ヲテ至急整頓候様取計フヘ

○轉籍ノ者送籍証へ天然痘及種痘ノ濟否記入

○乙第四十七號 (明治十九年四月廿日)

戸 長 役 場

自今管内外へ轉籍ノ者ハ送籍寄留証へ原籍戸長ヨリ寄留地戸長へ天然痘及種痘ノ濟否(種痘濟ノ者ハ初種再三種ヲ區別スヘシ)ヲ記シ通報スヘシ

○本籍外ノ者ヨリ差出タル届書取扱方

○縣令丙第三十二號 (明治十九年十一月八日)

戸 長 役 場

内務省令第十九號第五條但書ニ依リ本籍外ノ者ヨリ差出タル届書ハ左ノ如ク取扱フヘシ

一寄留者ニ係ル届書ハ寄留簿ニ登記シタル上入寄留届書ト合綴スヘシ但出產ニ於

テハ別ニ入寄留届ヲ爲サシムルコト及ハス

一寄留者ニアラサル者ノ届書ハ總テ便宜編綴スヘシ同令第六條ノ入寄留届書第七條ノ寄留者退去届書及第八條ノ寄留者復歸届書ハ類集編綴スヘシ

○戸籍取扱心得

○茨城縣令乙第壹號 (明治二十年一月十日)

郡 役 所
戸 長 役 場

戸籍取扱心得別冊之通相定ム

戸籍取扱心得

第一條 戸籍簿ハ毎町村ニ必ラス一冊ヲ編製スヘシ

但シ便宜ニ依リ一町村ヲ數冊ニ分綴スルコトヲ得

第二條 戸籍簿ハ宅地順ニ據リ其番號ヲ附スルヲ以テ若シ一宅地ヲ分割シテ二三宅

地トナシタル時ハ第何番屋敷ノ一二三ノ號ヲ附スヘシ

第三條 戸籍取扱手續第三條第十四條ニ官印同第四條第十五條ニ認印トアルハ共ニ

戸長ノ官印及認印ヲ指シタルヲ以テ若シ戸長不在等ノ節ハ之ヲ取扱ヒタル代理書記

ノ實印若シハ認印ヲ以テ代理ノ二字ヲ記入スヘシ

第四條 同第五條第七條ニヨリ戸籍簿ノ改製ヲナシタルトキハ郡役所ニ差出シ郡長

附錄第二號
前戸主死亡セル者ノ例

表中ハ朱消ハ朱書

茨城縣何郡何村何番屋敷

平民何年月何日土族ニ編セラレ
前戸主死亡氏名

何年月何日願濟復姓 ⑩	何年月何日願濟發嫡 ⑩	何年月何日願濟改名 ⑩	何年月何日願濟改名 ⑩	何年月何日願濟改名 ⑩	何年月何日願濟改名 ⑩	何年月何日願濟改名 ⑩	何年月何日願濟改名 ⑩	何年月何日願濟改名 ⑩	何年月何日願濟改名 ⑩
戸主	長男	妻	母	長女	長男	妻	母	長女	長男
何年月何日生 新名	何年月何日生 復姓號	何年月何日生 氏名	何年月何日生 亡父名妻	何年月何日生 亡父名長男	何年月何日生 復姓號	何年月何日生 氏名	何年月何日生 亡父名妻	何年月何日生 亡父名長男	何年月何日生 新名

⑩何年月何日何府何區何町平民氏名長男名ニ嫁ス

二十二年
乙酉年
第十號
改正
面

何年何月何日何縣何郡何村平民氏名妹名私生子願濟入籍× ^印 。何年何月何日死亡 ^印 。	何年何月何日何府何區何町平民氏名養女トナル ^印 。	何年何月何日同縣同郡同村何番地ヘ分家ス ^印 。	何年何月何日何縣何郡何村平民氏名二女入籍 ^印 。 何年何月何日夫名ニ從ヒ分家ス ^印 。	何年何月何日同縣何郡何村何番地絕家何氏ヲ再興ス ^印 。	何年何月何日何縣何郡何村平民氏名ニ家ス ^印 。	何年何月何日願濟大叔母ヲ大伯母ト正誤ス ^印 何年何月何日失踪 ^印 。何年何月何日滿八十歳ニ付除籍ス ^印 。	何年何月何日失踪 ^印 何年何月何日何縣何郡何村ニ現在 ^印 。何年何月何日何縣何郡何村ニ於テ死亡 ^印 。	何年何月何日何地某裁判所言渡ニヨリ何縣何郡何町平民氏名妻離婚ニ付復歸 ^印 。	何縣何郡何町平民氏名二男何年何月何日母離婚復歸ニ付願濟携帶 ^印 。	何年何月何日同縣何郡何町士族氏名長女入籍ス ^印 。 何年何月何日同縣何國何町士族氏名方ヘ離婚復歸ス ^印 。	
男 二	女 二	弟	弟 妻	弟	妹	大伯母 叔父 母	叔父	叔母	從弟	婦	係
何年何月何日生 名	何年何月何日生 名	何年何月何日生 名	何年何月何日生 弟名妻 名	何年何月何日生 亡父名三男 名	何年何月何日生 亡父名長女 名	何年何月何日生 亡曾祖父名四女 名	何年何月何日生 亡祖父名三男 名	何年何月何日生 亡祖父名二女 名	何年何月何日生 叔母名二男 名	何年何月何日生 長男名妻 名	何年何月何日生 長男名長男 名

何年何月何日何府何區何町平民氏名長男名妻離婚ニ付復歸^印何年何月何日養子名妻トナル^印

何年何月何日何縣同郡何村平民氏名二男入籍ス^印

備考 願濟又ハ確定裁判言渡ニ係ル事項ハ何年何月何日願濟云々又ハ何年何月何日何地何裁判所裁判言渡云々ト記スヘシ
朱線ハ除籍又ハ氏名身分變換又ハ訂正ヲ登記スルトキニ盡スルモノトス

附錄第三號

前戶主生存セルモノ、例

茨城縣何郡何村何番屋敷

何年何月何日相續^印

士族

前戶主 父氏名

戶主 父名二男 氏名

ハ朱消〇ハ朱書

何年何月何日相續^印何年何月何日隱居^印

何年何月何日何縣何郡何村士族氏名二女入籍^印

何年何月何日何府何區何町士族氏名長女入籍^印

父

亡祖父名長男 何年何月何日生

父名妻 何年何月何日生

母

何年何月何日生

妻

何年何月何日生

附錄第四號

養家ヲ續キタルモノ、例

茨城縣何郡何町何番屋敷

平民

前戶主 養父氏名

何年何月何日何縣何郡何町士族氏名三男養嗣子ニ入籍^印何年何月何日相續^印

戶主 養父名養嗣子 氏名 何年何月何日生

ハ朱消〇ハ朱書

何年何月何日隱居^印。何年何月何日死亡^印

二百三十一

何年何月何日何郡何村平民氏名二女人籍^印

養父

養祖父名二男

名

養父名妻

何年何月何日生

名

養母

養父名長女

何年何月何日生

養父名長女

名

妻

何年何月何日生

附錄第五號

分家又ハ絶家再興及附籍者別立等ノ例

ハ朱消。ハ朱書

平民

茨城縣何郡何村何番屋敷

何年何月何日何縣何郡何村何番地士族氏名ヨリ分家^印

主 戶

父名二男

何年何月何日生

氏 名

何年何月何日何府何區何町士族氏名三女人籍^印

何年何月何日何縣何郡何村平民氏名長男名ニ嫁ス^印

妻

何年何月何日生

名

長女

何年何月何日生

名

長男

何年何月何日生

名

附錄第六號

前戶主別居セルモノノ例

ハ朱消。ハ朱書

平民

茨城縣何郡何村何番屋敷

前戶主 離縁父氏名

何年何月何日相續^印

父名長男

主 戶

何年何月何日生

氏 名

二百三十二

何年何月何日同縣同郡同村平民氏名妹入籍ス印

妻	長女	二女							
何年何月何日生 名	何年何月何日生 名	何年何月何日生 名							

附錄第七號 棄兒之例

茨城縣何郡何村

何年何月何日何通字何ニ於テ拾上シ印
 何年何月何日何郡何村平民氏名養子トナル印

棄兒									
氏名									
推測何年何月生									

何年何月何日何番地先ニ於テ拾上シ印
何年何月何日何縣何郡何町平民氏名引受トナル印

棄兒 氏名
 推測何年何月生

附錄第八號 全戸ノ送籍狀書式

何縣何郡何村何番屋敷

平民	前戸主	亡父氏名							
		亡父名長男							
		舊姓 舊名							
		氏名							

以下十年一廿四號
乙未年四月十一日
改正如本ノ文ヲ
セラズ

何年何月何日何縣何郡何村平民氏名二女入籍

何年何月何日何府何區何町士族氏名二女入籍

主	何年何月何日生
母	亡父名妻 何年何月何日生
妻	何年何月何日生

右全戸何名御管内何村へ轉任ノ儀申出ニ付及送籍候也

年 月 日

何府何郡何村戸長御中

何縣何郡何村戸長氏名官印

附錄第九號 人別ノ送籍狀書式

第何號

何縣何郡何町何番屋敷

士族	何年何月何日生
戸主 氏名	

何年何月何日何府何區何町士族氏名養子離縁ニ付復歸

弟	亡父名二男 何年何月何日生
---	------------------

右之者御管内何町何番屋敷士族氏名養子ニ遣ノ候旨申出ニ付及送籍候也

年 月 日

何縣何郡何町戸長御中

何縣何郡何町戸長氏名官印

附錄第十號 全戸ノ入籍報知書々式

戸長役場通常用紙

印割 第何號

元何縣何郡何町士族

氏名 家族 何名

右何年何月何日付第何號送籍狀ニ照查シ同何日管内何村何番屋敷へ入籍取扱候此段及報知候也

年 月 日

何縣何郡何町戸長氏名殿

何縣何郡何村戸長氏名官印

附錄第十一號 人別ノ入籍報知書々式

入籍報告書

第何號

元何縣何郡何町平民

氏名三男

名

右何年何月何日付第何號送籍狀ニ照査シ昨何日管内何町何番屋敷氏名養子ニ入籍
取扱候此段及報知候也

年 月 日

何縣何郡何町戸長氏名

何縣何郡何町戸長氏名殿

附錄第拾二號

入寄留簿登記書式ノ一

ハ朱消。ハ朱書

茨城縣何郡何村何番屋敷持家寄留

本縣何郡何町何番地
士族

何年何月何日全戸寄留届出^印

主 戸

戸主亡父名二男

氏

名

何年何月何日退居届出^印

亡父名妻

何年何月何日生

何年何月何日寄留届出 ^印	何年何月何日生	妻	何年何月何日生	名
何年何月何日出生何年何月何日届出 ^印	何年何月何日生	長	何年何月何日生	名
	何年何月何日生	男	何年何月何日生	名
	何年何月何日生	母	何年何月何日生	名
	何年何月何日生	妹	亡父名長女	名
	何年何月何日生		何年何月何日生	名

備考 他府縣人入寄留簿ノ本籍ハ何府縣何郡區何町村何番屋敷ト記シ他郡人入寄
留簿ノ本籍ハ何郡何町村何番屋敷ト記ス

附錄第三號
入寄留簿書式ノ二

×ハ朱消。ハ朱書

茨城縣何郡何村何番屋敷借地寄留

本籍何府縣何郡區何町村何番屋敷

○何年何月何日退居届出

平民戶主 氏名

何年何月何日妻外一名携帶寄留届出

父名二男

世帶主

何年何月何日生

妻名

何年何月何日生

○何年何月何日退居届出

二女名

何年何月何日生

長女名

何年何月何日生

何年何月何日寄留届出

何年何月何日生

附錄第四號

入寄留簿登記書式ノ三

ハ朱消。ハ朱書

何年何月何日何町何番屋敷平民氏名方ハ寄留届出

何縣何郡何町村何番地平民氏名二男

○何年何月何日死亡

何年何月何日生

何年何月何日何町何番屋敷平民氏名方ハ寄留届出

何府何區何町何番地平民氏名

何年何月何日何町何番屋敷士族氏名方ハ寄留届出

何年何月何日生

○何年何月何日退去届出

何縣何郡何町村何番地平民氏名妹

何年何月何日何町何番屋敷平民氏名方ハ寄留届出

何年何月何日生

何年何月何日何町何番屋敷平民氏名方ハ寄留届出

何縣何郡何町村何番地士族氏名

○何年何月何日何町何番屋敷平民氏名方ハ寄留届出

何年何月何日生

何年何月何日何町村何番屋敷氏名方ハ寄留替届出

何年何月何日生

附錄第拾五號

用紙野紙以下皆同

出寄留簿書式ノ一

他郡ノ部

何村何番地平民氏名父名

母 右同人妻

名

弟 右同人二男

名

○何年何月何日何府何區何町何番地氏名方へ寄留替[㊦]

名

右何年何月何日本縣何郡何村何番屋敷へ寄留何月何日發送届書何月何日受領[㊦]

何村何番地平民氏名三女

名

右何年何月何日本縣何郡何村何番屋敷氏名方へ寄留何月何日發送届書何月何日受領[㊦]

領[㊦]

何村何番地士族氏名弟

名

右何年何月何日本縣何郡何村何番屋敷氏名方へ寄留何月何日發送届書何月何日受領[㊦]

領[㊦]

附錄第十六號

出寄留簿書式ノ二

他府縣ノ部

何村何番地平民

氏

名

母

名

妻

名

右何年何月何日何縣何郡何村何番地へ寄留何月何日發送届書何月何日受領[㊦]

何村何番地士族氏名二男

名

○何年何月何日復歸何月何日届出[㊦]

右何年何月何日何府何區何町何番地氏名方へ寄留何月何日發送届書何月何日受領[㊦]

領[㊦]

附錄第十七號

登記目錄雛形ノ一

加籍目錄

本籍人管内出生之部

本籍人管外出生之部

棄兒之部

無籍者就籍之部

他府縣ヨリ入籍之部

- 一 結婚入籍
- 二 縁女入籍
- 三 養子女入籍
- 四 相續人入籍
- 五 携帶者入籍
- 六 親族入籍
- 七 私生子引受
- 八 棄兒引取
- 九 棄兒引受替入籍
- 十 離婚復籍
- 十一 養子女離縁復籍
- 十二 相續人離縁復籍
- 十三 分家入籍
- 十四 分家者復歸入籍
- 十五 附籍者入籍

- 十六 附籍者別立入籍
- 十七 絶家再興入籍
- 十八 轉住入籍

他郡ヨリ入籍之部

事項全上

他戸長役場管内ヨリ入籍之部

事項全上

附録第十八號

登記目録雛形ノ二

除籍目録

本籍人管内死亡之部

本籍人管外死亡之部

失踪者重籍者除籍之部

他府縣へ送籍之部

- 一 結婚送籍
- 二 縁女送籍
- 三 養子女送籍

- 四 相續人送籍
 - 五 携帶者送籍
 - 六 親族送籍
 - 七 私生子引渡
 - 八 棄兒引渡
 - 九 棄兒引受替送籍
 - 十 離婚送籍
 - 十一 養子女離縁送籍
 - 十二 相續人離縁送籍
 - 十三 分家送籍
 - 十四 分家者復歸送籍
 - 十五 附籍者送籍
 - 十六 附籍者別立送籍
 - 十七 絕家再興送籍
 - 十八 轉住送籍
- 他郡へ送籍之部
事項全上

他戸長役場管内へ送籍ノ部
事項全上

附録第十九號

目錄雜形ノ三

管内異動目錄

管内送入籍之部

事項加籍目錄入籍之部除籍目錄送籍之部ニ同

異動之部

- 一 戸内結婚
- 二 戸内離婚
- 三 家名相續
- 四 廢戸主
- 五 廢嫡
- 六 廢嫡者復立
- 七 庶子私生子爲嫡出
- 八 棄兒立戸
- 九 失踪

- 十 失踪者復歸
- 十一 失踪者所在分明
- 十二 改名
- 十三 復姓
- 十四 身分變換
- 十五 廢家
- 十六 絕家
- 十七 轉住
- 十八 戶籍訂正

附錄第二十號

登記目錄書式ノ一

明治何年加籍目錄

第 號 本籍人管內出生之部

父 母 長男

何村何番地平民

妻 氏

名 名 名

第 號 右名何月何日出生何月何日届出

何村何番地士族氏名長男

父

母

長女

婦 孫

名 名 名

第 號 右名何月何日出生何月何日届出

何村何番地平民氏名妹

母

私生子

名 名

右名何月何日出生何月何日届出

附錄第二十一號

登記目錄書式ノ二

明治何年加籍目錄

第 號 本籍人管外出生之部

何村何番地平民氏名弟

父 母

弟 妻

名 名

右名何年何月何日何府何區何町ニ於テ出生何月何日發送屆書何月何日受領印
第 號 何村何番地士族 名

父 氏

母 妻

長女 名

右名何年何月何日何縣何郡何村ニ於テ出生何月何日發送屆書何月何日受領印
第 號 何村何番地士族氏名叔母 名

母 名

私生子 名

右名何年何月何日何縣何區何町ニ於テ出生何月何日發送屆書何月何日受領印

附錄第二十二號

登記目錄書式ノ三

明治何年加籍目錄

棄兒之部

第 號

棄兒

氏

推測何年何月生 名

右何月何日何村何番地ニ於テ拾上シ印

附錄第二十三號

登記目錄書式ノ四

明治何年加籍目錄

無籍者就籍之部

第 號

何村(何番地)

氏

何年何月何日生 名

右無籍之處就籍何月何日願濟何月何日届出印

第 號

何村何番地平民氏名三男

何年何月何日生 名

右出生届漏ニ付何月何日何地何違警罪裁判所言渡ノ上何月何日届出印

附錄第二十四號

登記目錄書式ノ五

明治何年加籍目錄

他府縣ヨリ入籍之部

第 號

何村何番地平民氏名婦
長男名妻

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地平民氏名二女ヲ娶ル何月何日届出何月何日入籍報知書發送

印

第 號

何村何番地士族氏名長男名緣女

名

何年何月何日生

右何縣何郡何町何番地平民氏名長女ヲ貰受ル何月何日届出何月何日入籍報知書發送

送印

第 號

何村何番地士族氏名養子

名

何年何月何日生

右何府何區何町何番地士族氏名二男ヲ貰受ル何月何日届出何月何日入籍報知書發送

送印
第 號

何村何番地平民氏名相續人實兄
亡父氏名四男

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地平民氏名弟ヲ貰受ル何月何日届出何月何日入籍報知書發送

印

第 號

何村何番地平民氏名夫名長男

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地平民氏名甥ヲ父名結婚ニ付携帶入籍ス何月何日届出何月何

日入籍報知書發送

第 號

何村何番地平民氏名母

名

何年何月何日生

右何縣何郡何町何番地平民氏名叔母亡祖父名二女ヲ實母ニ付引受ル何月何日届出

何月何日入籍報知書發送

第 號

何村何番地平民氏名子

名

何年何月何日生

右何府何區何町何番地平民氏名二女名私生子ヲ引受ノ何月何日届出何月何日入籍
報知書發送[㊦]

第 號

何村何番地平民氏名三男

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地平民氏名引受棄兒氏名ヲ引取ル何月何日何地何裁判所裁判
言渡何月何日届出何月何日入籍報知書發送[㊦]

第 號

何村何番地平民氏名引受棄兒

氏

名

推測何年何月生

右何府何區何町何番地平民氏名引受棄兒ヲ更ニ引受ノ何月何日届出何月何日入籍
報知書發送[㊦]

第 號

何村何番地士族氏名三女

名

何年何月何日生

右何縣何郡何町何番地平民氏名妻離婚ニ付復籍ス何月何日届出何月何日入籍報知
書發送[㊦]

第 號

何村何番地平民氏名妹

名

何年何月何日生

右何府何郡何村平民氏名養女離縁ニ付復籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發
送[㊦]

第 號

何町何番地平民氏名弟

亡父名三男

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地平民氏名相續人離縁ニ付復籍ス何月何日届出何月何日入籍
報知書發送[㊦]

第 號

何村何番地平民氏名孫

母名長女

名

右何縣何郡何村士族氏名長女ヲ母名離婚ニ付携帶入籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送[㊦]

第 號

何村何番地平民

氏

何年何月何日生

何年何月何日何府何區何町何番地士族氏名三女ヲ娶ル

妻

何年何月何日生

右何府何區何町士族氏名二男名分家入籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送[㊦]

第 號

何村何番地士族氏名二男

名

何年何月何日生

何年何月何日何縣何郡何村何番地平民氏名妹ヲ娶ル

婦

同人妻

何年何月何日生

同人長男

孫

何年何月何日生

名

右何府何區何町何番地へ分家ノ處復歸入籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送[㊦]

第 號

何村何番地士族氏名附籍平民

亡父名長男

氏

何年何月何日生

亡父名三男

弟

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地ヨリ附籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送[㊦]

第 號

何村何番地平民

前戸主名

氏

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地士族氏名附籍ノ處別立入籍ス何月何日届出何月何日入籍報

知書發送[㊦]
第 號

何村何番地平民
氏

名

何年何月何日生

右何縣何郡何村何番地平民氏名二男當時何番地絶家何氏ヲ再興ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送[㊦]
第 號

何村何番地平民

亡父名長男

氏

名

何年何月何日生

何年何月何日何縣何郡何町何番地平民氏名長女ヲ娶ル

妻

名

何年何月何日生

長女

名

何年何月何日生

右何縣何郡何町何番地ヨリ轉住入籍ス何月何日届出何月何日入籍報知書發送[㊦]
附錄第二十五號

登記目錄書式ノ六

明治何年加籍目錄
他郡ヨリ入籍之部

(書式体裁他府縣ヨリ入籍ノ部ニ同シ故ニ畧之)

附錄第二十六號

登記目錄書式ノ七

明治何年加籍目錄

他戸長役場管内ヨリ入籍之部

(書式体裁他府縣ヨリ入籍ノ部ニ同シ故ニ畧之)

附錄第二十七號

登記目錄書式ノ八

明治何年除籍目錄

本籍人管内死亡之部

第 號

何村何番地平民氏名母

名

右名何月何日死亡何月何日届出[㊦]

第 號

何村何番地士族

氏

名

右名何月何日死亡何月何日届出[㊦]

附錄第二十八號

登記目錄書式ノ九

明治何年除籍目錄

本籍人管外死亡之部

第 號

何村何番地平民氏名二男

名

右名何年何月何日何府何區何町ニ於テ死亡何月何日發送届書何月何日受領[㊦]

附錄第二十九號

登記目錄書式ノ十

明治何年除籍目錄

失踪者及重籍者除籍之部

第 號

何村何番地平民氏名又從弟

名

右名何年何月何日ヨリ失踪本年何月何日滿八十歳ニ至ルニ付除籍ス[㊦]

第 號

何村何番地平民

名

右名八十一歳何ケ月何年何日ヨリ失踪本年何月何日滿三十六ケ月ニ至ルニ付除籍

ス[㊦]

第 號

何村何番地平民氏名三男

名

右名何年何月何日何縣何郡何町何番地平民氏名養子トナリ同町在籍ノ者ニ付何月

何日當村除籍ス[㊦]

附錄第三十號

登記目錄書式ノ十一

明治何年除籍目錄

他府縣へ送籍之部

第 號

何村何番地平民氏名長女

名

右何府何區何町何番地平民氏名妻ニ嫁ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報告書

受領[㊦]

第 號

何村何番地士族氏名妹

亡父名三女

名

右何縣何郡何町何番地士族氏名長男名綠女トナル何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領印
第 號 何村何番地平民氏名二男 名

右何縣何郡何村何番地平民氏名養子トナル何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領印
第 號 何村何番地平民氏名弟 亡父名四男 名

右何縣何郡何村何番地平民氏名實兄ニ付相續人トナル何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領印
第 號 何村何番地平民氏名甥 弟名長男 名

右何縣何郡何村平民氏名ト父名結婚ニ付携帶送籍ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領印
第 號 何町何番地平民氏名叔母 名

亡祖父二女

右何縣何郡何村何番地平民氏名實母ニ付引受トナル何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領印
第 號 何村何番地平民氏名二女名私生子 名

右何府何區何町何番地平民氏名子トナル何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領印
第 號 何村何番地平民氏名引受棄兒 氏 名

右何縣何郡何村何番地平民氏名三男ナルト發覺シ何年何月何日何地何裁判所裁判言渡ニ付引渡ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領印
第 號 何村何番地平民氏名引受棄兒 氏 名

右何縣何郡何町何番地平民氏名更ニ引受シ何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領印
第 號 何村何番地士族氏名妻 名

右何縣何郡何村平民氏名二女離婚ニ付送籍ノ何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領⑩
第 號 何村何番地平民氏名養女 名

右何縣何郡何村何番地平民氏名三女離婚ニ付送籍ノ何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領⑩
第 號 何村何番地士族氏名相續人實兄 亡父名二男 名

右何縣何區何町何番地平民氏名伯父離婚ニ付送籍ノ何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領⑩
第 號 何村何番地平民氏名長女 名

右何縣何郡何村何番地平民氏名孫母名離婚ニ付携帶送籍ノ何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領⑩
第 號 何村何番地士族氏名二男 名

右何府何區何町何番地ノ分家送籍ノ何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領⑩
第 號 何村何番地平民 妻 名 名 名

右何縣何郡何町何番地士族氏名三男分家ノ處復歸送籍ノ何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領⑩
第 號 何村何番地平民 長男 妻 弟 名 名 名

右何縣何郡何町何番地士族氏名方ノ附籍ノ何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領⑩
第 號 何村何番地士族氏名附籍平民 亡父名三男 弟 名 名

右何縣何郡何町何番地へ別立送籍ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領 氏 名

第 號 何村何番地平民氏名三男 名

右何府何區何町何番地ニ於テ絶家何氏ヲ再興ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領 第 號

何村何番地士族

何年何月何日何縣何郡何村士族氏名叔母ヲ娶ル

氏 妻 長女 名 名 名

右何縣何郡何村何番地へ轉住送籍ス何月何日送籍狀發送何月何日入籍報知書受領 第 號

附錄第三十一號

登記目錄書式ノ十二 明治何年除籍目錄

他郡へ送籍之部

(書式体裁他府縣へ送籍之部ニ同シ故ニ略之)

附錄第三十二號

登記目錄書式ノ十三 明治何年除籍目錄

他戸長役場管内へ送籍ノ部

(書式体裁他府縣へ送籍之部ニ同シ故ニ略之)

附錄第三十三號

登記目錄書式ノ十四 明治何年管内異動目錄

管内送入籍之部

第 號 何町何番地平民氏名弟妻

弟名妻

名

右何町何番地士族氏名長女ヲ娶ル何月何日届出 第 號 何町何番地平民氏名夫

名

右何町何番地平民氏名伯父ヲ貰受ク何月何日届出 第 號

第 號 何町何番地平民氏名長男縁女 名

第 號 右何町何番地平民氏名二女ヲ貰受ク何月何日届出 何町何番地士族氏名養女 名

第 號 右何町何番地士族氏名二女ヲ貰受ク何月何日届出 何町何番地士族氏名養子 名

何年何月何日何縣何郡何村 養子名妻 名
何番地平民氏名長女ヲ娶ル 婦 名

第 號 右何町何番地平民氏名廢家ノ上氏名ノ養子ト爲ル何月何日願濟何月何日届出 何町何番地平民氏名相續人實弟 名
亡父氏名三男 名

第 號 右何町何番地平民氏名叔父ヲ貰受ク何月何日届出 何町何番地平民氏名養孫 名
養子名長男

名

第 號 右何町何番地平民氏名廢戶ノ上氏名養子ト爲リタルニ付携帶ス何月何日届出 何町何番地士族氏名父 名

父名妻 母 名

第 號 右何町何番地平民氏名祖父母ヲ貰受母ニ付引受ク何月何日届出 何町何番地平民氏名姪 名

弟名子

第 號 右何町何番地平民氏名妹名私生子ヲ弟名子トシテ引受ク何月何日届出 何町何番地平民氏名引受棄兒 名

氏

第 號 右何町預リノ處引受ク何月何日届出 何町何番地平民氏名妹 名

第 號 右何町何番地士族氏名二男名妻離婚ニ付復籍ス何月何日届出

第 號

何町何番地士族氏名二女

名

第 號

右何町何番地士族氏名養女離縁ニ付復籍ス何月何日届出印

何町何番地平民

氏

何年何月何日何縣何區何町
何番地平民氏名三女ヲ娶ル

妻

長女

名

第 號

右何町何番地平民氏名弟分家ス何月何日届出印

何町何番地士族氏名叔父

名

第 號

右何町何番地へ分家ノ處復籍ス何月何日届出印

何町何番地士族氏名附籍平民

氏

名

亡父二女

妹

名

第 號

右何町何番地ヨリ附籍ス何月何日届出印

何町何番地士族

名

何年何月何日何府何郡何村
何番地士族氏名長女ヲ娶ル

妻

名

第 號

右何町何番地平民氏名へ附籍ノ處離籍ス何月何日届出印

何町何番地平民

氏

名

第 號

右何町何番地士族氏名二男絶家何氏ヲ再興ス何月何日届出印

何町何番地平民

氏

名

亡父名妻

母

名

長男

名

附錄第三十四號

登記目録書式ノ十五

明治何年管内異動目録

異動ノ部

第 號

何町何番地士族氏名

右結婚何月何日届出⑩
第 號

婦

名 名

何町何番地平民氏名養子

養子名妻

長女

名 名

右離婚何月何日⑩
第 號

何町何番地平民

氏

名

右戸主ヲ廢ス何月何日願濟何月何日届出⑩
第 號

何町何番地士族

氏

名

父

名

右父名退隱ノ長男名相續ス何月何日届出⑩
第 號

何町何番地平民

氏

名

右父名死亡跡相續ス何月何日届出⑩
第 號

何町何番地平民

氏

名

右前戸主父失踪ノ何ヶ年經過ニ依リ相續ス何月何日願濟何月何日届出⑩

第 號 何町何番地士族氏名長男

名

右廢嫡何月何日願濟何月何日届出⑩
第 號 何町何番地士族氏名長男

名

右廢嫡ノ處事故解除ニ付復立ス何月何日願濟何月何日届出⑩
第 號 何町何番地平民氏名子

名

右母名父名ト結婚ニ依リ嫡出ト爲ル何月何日届出⑩
第 號 何町何番地平民

氏

名

推測何年何月生

右棄兒ノ處年齢滿十三歳ニ達シタルヲ以テ新ニ一戸ヲ立ツ⑩

第 號 何町何番地士族氏名叔父

第 號 右何月何日ヨリ失踪何月何日届出 何町何番地平民氏名二男

第 號 右失踪ノ處何月何日復歸何月何日届出 何町何番地平民氏名弟

第 號 右失踪ノ處何月何日何縣何郡何村ニ現在何月何日届出 何町何番地平民

第 號 右舊稱名ヲ改ム何月何日願濟何月何日届出 何町何番地士族

第 號 右舊姓何ヲ原姓ニ復ス何年何月何日願濟何月何日届出 何町何番地士族

第 號 右平民ノ處何月何日士族ニ編入セラル何月何日届出 何町何番地平民

第 號 右士族ノ處平民ニ歸入ス何月何日願濟何月何日届出 何町何番地平民

第 號 右廢家ス何月何日願濟何月何日届出 何町何番地士族

第 號 右死亡後五個月ヲ過キ相續人ヲ届出サルニ付何月何日絶家トナル 何町何番地平民

第 號 右失踪ノ處年齢八十歳ニ達シ除籍シタル後六ヶ月ヲ過キ相續人ヲ届出サルニ付何月何日絶家トナル 何町何番地平民

右同町何番地ヨリ移轉ス何月何日届出[㊦]
第 號 何町何番地平民氏名又從弟 名

右戸主トノ續柄甥ハ又從弟ノ錯誤ニ付訂正何月何日願濟何月何日届出[㊦]
第 號 何町何番地士族氏名二男 名

右生年月日ニ何月トアルハ何月ノ誤ニ付訂正何月何日届出[㊦]
第 號 何町何番地平民氏名三女 名

右名某字ハ某字ノ錯誤ニ付訂正何月何日願濟何月何日届出[㊦]
附錄第三十五號

戸標離形 甲 豎七寸

何郡何町(村)
族籍 何 誰
家族 男何人 女何人

但有位ノ輩ハ位階ヲ頭書スヘシ

乙 豎七寸

何ノ誰附籍
族籍 何 誰
家族 男何人 女何人

(參看)

○戸籍改製手續
○茨城縣令乙第二號 (明治二十年一月十一日)

郡 役 所
戸 長 役 場

戸籍改製手續左ノ通心得ヘシ
戸籍改製手續

第一條 戸籍改製ハ明治二十年一月一日ノ現在員ヲ以テ基礎トナシ取調同年三月

三十一日ヲ期シ改製完結スルモノトス

第二條 戶長役場ニ於テハ戶長主任トナリ書記雇等ヲナシ其聯合内ノ每町村ヘ派出セシメ毎戶ニ就キ在來ノ戶籍簿ト現人員トチ綿密ニ照合點檢シ遺漏ナカラシムヲ要ス

第三條 前條ノ場合ニ於テ其戶籍簿ト照合セサルトキハ其理由ヲ記シ戶籍簿ニ付箋スルモノトス

第四條 前條付箋ノ場合ニ於テハ送加入除籍ノ届願等夫々手續ヲナサシメ一村取總メノ上送加入除ノ順序ニ取計フヘシ但士族編入及亡兄ノ遺妻ト結婚スル如キハ知事ヘ其他ハ郡長ヘ上申スヘシ

第五條 戶籍改製ノ事務ハ各戶長役場ニ於テ取扱フモノトス
但シ二三戶長役場申合ハセ別ニ戶籍改製事務所ヲ設置スルモ妨ケナシ此場合ニ於テハ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ツヘシ

第六條 第四條送加入除籍手續中ノモノモ改製用紙ニハ其列次ニヨリ登記スルモノトス但許可濟ノ上ハ舊戶籍簿ヘ其許可ノ年月日及ヒ理由ヲ記入シ置クヘシ

第七條 屋敷番號符ヲ製シ置キ毎戶ヘ臨檢ノ際其號順ニ貼付シ誤脱ナキヲ要ス

第八條 番號ノ順序ヲ定ムルハ町村内便宜ノ地ヨリ計算シ連簾ノ順序ニヨリ貼付スヘシ其空屋ノ如キモ順序ニヨリ番號ヲ付シ改製戶籍簿編綴ノ節ハ空白ノ用紙

ヲ存シ置クヘシ

第九條 一宅地内數戶居住スルモノハ第何番屋敷ノ一二三號ヲ付スヘシ其宅地ノミニシテ家屋ナキモノモ順序ニヨリテ番號ヲ付シ改製戶籍簿編綴ノ節ハ前條ノ如クヘシ

第十條 改製用紙ハ取扱心得第六條ニ據リ其野板ハ各戶長役場ニ於テ調製備置クヘシ

第十一條 改製戶籍簿淨書濟ノモノハ便宜縣官及ヒ郡吏ノ調査ヲ受クヘシ

第十二條 郡役所ニ於テハ其係員ヲ各戶長役場ニ派遣シ第二條及第五條ノ事務ヲ監督スヘシ

第十三條 用紙ハ着手ノ際其概算ヲ以テ便宜郡役所ニ於テ買上ケ各戶長役場ヘ配付スルモノトス

但シ費用ハ町村費ヨリ支弁スヘシ

附錄

第一條 戶籍改製前戶籍取扱手續第八條以下ノ届出アリタルトキハ先ツ假リニ現戶籍簿ヘ記入シ置キ追テ改製戶籍簿ヘ登記スル者トス

但戶主代替ノ場合ニ於テハ本條ノ手續ニヨルヘシ

第二條 戶籍改製整頓前ハ前條ノ如クスト雖戶籍取扱手續第十六條ヨリ同第十九

條迄ノ手續ヲ履行スヘシ
第三條 全戸入籍ナルモノアルトキハ直チニ改製用紙ニ登記スヘシ
(參看)

○登記目錄編製ノ件

○茨城縣令乙第三號 (明治二十年一月十一日)

郡 役 所
戶 長 役 場

明治十九年内務省令第二十二號戶籍取扱手續第九條ノ登記目錄ハ明治二十年一月一日ヨリ編製登記スヘシ

○陸軍校團生徒隊ニ屬スル馬丁寄留取扱

○縣令乙第八號 (明治二十年一月二十四日)

郡 役 所
戶 長 役 場

陸軍校團生徒隊ニ屬スル馬丁寄留ノ義ハ現在地ニ於テハ其出入調査ヲ要セス本籍地ニ於テハ傭入又ハ解傭ノ通知若ハ届書ヲ受領シタルキハ戶籍取扱手續ニ依リ出寄留簿ヲ加除シ戶籍表調製ノ節ハ之ヲ第二人口出入表出寄留ニ算入スヘキ儀ト心得ヘシ
○後見人名簿重罪經罪受刑者人名簿身代限人名簿調製

○茨城縣令乙第十二號 (明治二十年二月廿五日)

郡 役 所
戶 長 役 場

明治二十年一月一日現在ヲ以テ左ノ雛形ニ據リ後見人々名簿重罪經罪受刑者人名簿身代限人名簿ノ四種ヲ製シ正本ハ戶長役場ニ備置キ副本ハ郡役所へ差出スヘシ但シ爾後異動加除アルトキハ其時々之ヲ記入シ仍ホ郡役所へモ報告スヘシ
(雛形一)
○ハ朱

後見人々名簿

何郡何町村何番屋敷士族(平民)

○何年何月何日本人
丁年ニ遠ダル以テ

氏 名
何年何月何日生

後見解除届出⑩

何郡何町村何番屋敷士族(平民)
後見人 氏 名

何年何月何日生

右何年何月何日何々ノ事故ヲ以テ後見届出。⑪

何郡何町村何番屋敷士族(平民)
氏 名

何年何月何日生

實父

後見人氏

名

何年何月何日生

右何年何月何日何々ノ事故ニヨリ後見届出。㊦

○備考 朱書及朱線ハ異動訂正又ハ删除ニ用テ以下倣之

(雛形二)

重罪受刑者人名簿

何郡何町村何番屋敷士族(平民)

氏

名

何年何月何日生

何年何月何日何集
治監ニ於テ死亡。㊦

右何年何月何日何重罪裁判所ニ於テ有期徒刑何年ニ處セラレ。㊦

何郡何町村何番屋敷士族(平民)

氏

名

何年何月何日生

右何年何月何日何重罪裁判所ニ於テ重懲役何年ニ處セラレ。㊦
(雛形三)

輕罪受刑者人名簿

(舊式重罪受刑者人名簿ニ全シ)

(雛形四)

身代限人名簿

何郡何町村何番屋敷士族(平民)

氏

名

何年何月何日生

右何年何月何日何裁判所ニ於テ身代限處分ヲ受ク。㊦

○寄留届出取扱心得

○茨城縣令丙第十六號 (明治廿年二月廿五日)

戸長役場

明治十九年内務省令第十九號寄留届出取扱方左之通心得ヘシ

寄留届取扱心得

一寄留本人ノ内戸主ニアラサル者ニテ實印ヲ所持セサルカ若クハ其氏名ヲ記スル能ハサル等ノ者ハ無印又ハ代書シ其旨ヲ氏名ノ傍ニ附記一實印無之等ノ類ニテ届出ルキハ必ス署印ナサシムルニ及ハス但現ニ後見人アル幼者ハ其後見人幼者ニ代リ届出シムヘシ

一 學校及ヒ會社其他農商家等同所ニ數人寄留シタル場合ニ在ツテハ每人各自ニ寄留ヲ爲サシムルヲ要セス一同一紙ニ連署シテ届出ルモ妨ケナシ

一 公私ノ用コテ最初ヨリ寄留スル者及學校寄宿生婢僕ノ類ハ寄宿シタル當日ヨリ十日以内ニ届出ヘキハ勿論ナリト雖モ最初ヨリ寄留スルニアラスシテ一時逗留スル者等ハ其逗留九十日ヲ過キタルキニ於テ寄留ノ取扱トナルモノナレハ其寄留トナリタル日即チ九十日ヨリ起算シ十日以内ニ寄留ノ届出ヲ爲スヘキモノトス

一 内務省令第十九號第六條中ノ寄留者及地主云々トアルハ寄留シタル者ト寄留ヲ置キタル地主又ハ家主又ハ其他其家ノ管理者(執事差配人支配人看守人取扱人等ノ類)ハ雙方ヨリ届出ヘントノ趣意ニテ其届書ハ双方ヨリ各別ニスルモ又一紙ニ連署シテ届出ルモ妨ケナシ

○同郡内寄留届出

○縣令甲第四十四號 (明治二十年六月四日)

第一條 同郡内ニ寄留シタルトキハ寄留者ヨリ十日以内ニ兩地ノ戸長ニ其旨届出ヘ

第二條 寄留地ヲ移轉シ又ハ本籍地ニ歸リタルトキモ亦前條ニ同シ

○改正戸籍簿等表紙様式

○茨城縣令乙第三十一號 (明治二十年六月十四日)

郡長役場所

改製戸籍簿及寄留簿登記目錄ノ表紙左ノ様式ニ據リ記載スヘシ

表紙ハ成ルヘシ厚紙ヲ用ヒ假綴トス

明治二十年三月改製

戸籍簿

茨城縣 何郡 何町 村

一 町村ニシテ數冊ニ分ツトキハ一冊毎ニ何冊ノ内一(二)ト記シ又數町村ヲ合綴スルトキハ其町村名ヲ列記スヘシ

明治二十年 他郡之部

入寄留簿

見出シハ他府縣ノ部ニ全シ

出寄留者ノ繁多ナル聯合ニアツテハ他府縣他郡ヲ各別ニ綴ルモ妨ナシ

明治二十年 他府縣之部

出寄留簿

他郡之部

明治二十年 他府縣之部

入寄留簿

茨城縣何郡何町(村)外何ヶ町(村)

戸長役場所

戸主ト一世

一世帶ヲナサ、ル者

他府縣之部

他郡之部

明治二十年
本籍人管内出生之部 棄兒之部
本籍人管外出生之部 無籍者就籍之部
加籍目録

管内 管外 棄兒 無籍

明治二十年
他府縣ヨリ入籍之部
加籍目録

明治二十年
他郡ヨリ入籍之部
加籍目録

明治二十年
他戸長役場ヨリ入籍之部
加籍目録

本縣人管内死亡之部
本縣人管外死亡之部
失踪者及重籍者除籍之部
除籍目録

管内 管外 失踪重籍

明治二十年
他府縣へ送籍之部
除籍目録

明治二十年
他郡へ送籍之部
除籍目録

明治二十年
他戸長役場管内へ送籍之部
除籍目録

明治二十年
管内送籍之部
管内異動目録

明治二十年
管内入籍之部
管内異動目録

明治二十年
異動之部
管内異動目録

○有位者改姓名貴族替死亡届ヲ受理シタル片報告
○縣令乙第三拾五號 (明治二十年六月廿七日)

郡 役 所
戸 長 役 場

自今有位(華族ヲ除ク)改姓名貴族替又ハ死去セントキ其届ヲ受理シタル戸長ハ直ニ
郡長ニ報告シ郡長ハ其報告ヲ受ケ或ハ願ヲ許可シタル片ハ直ニ宮内省華族局へ通牒
スヘシ

○無籍者編籍誤脱訂正廢嫡願及特許ヲ得ヘキ結婚願差出方

○縣令甲第四十九號 (明治廿二年六月二十六日)

無籍者編籍誤脫訂正廢嫡願及特許ヲ得ヘキ結婚願ハ本年七月一日以降所轄郡市役所ヲ經テ當廳ヘ差出スヘシ

○無籍者就籍及漏籍者編入願ノ節添申

○茨城縣訓令一一八號 (明治廿二年十二月廿日)

郡市役所

無籍者就籍及漏籍者編入願等ノ件ニシテ其役所經由ノ節ハ明治壬申戶籍編製當時ノ寄寓地ニ於テ編製相成ラサル事由取調添申スヘシ

明治二十二年六月二十六日
縣令甲第四十九號
無籍者編籍誤脫訂正廢嫡願及特許ヲ得ヘキ結婚願ハ本年七月一日以降所轄郡市役所ヲ經テ當廳ヘ差出スヘシ

明治二十二年六月二十六日
縣令甲第四十九號
無籍者編籍誤脫訂正廢嫡願及特許ヲ得ヘキ結婚願ハ本年七月一日以降所轄郡市役所ヲ經テ當廳ヘ差出スヘシ

○第九則 凡籍籍スル者華士族皆是皆神官ハ戸長へ申立管轄處ノ證ヲ受テ平民ノ
戸長副印ノ証ヲ可與事

○第十則 他ノ管轄コリ此管轄所へ入籍スル時元ノ管轄所ノ証ヲ持參シ其入籍所
ノ戸長ニ其由ヲ述シ戸長其詳述ナキヲ糾シ其所ノ籍ニ入ルヘシ面シテ戸長其元
ノ證ヲ其入籍セシ事ノ由ヲ明々其應ニ届ケヘシ

○第十一則 管轄内申ノ區ヨリ之ノ區ニ移ルカ如キモ第八ノ第十則迄ノ例ヲ見合
スヘシ但管轄内申ヲ以テ送籍ハ戸長ヨリ之ヲ致シ入籍ノ上其入籍所ノ戸長ヨ
リ其應ニ届ケ其應ニ之ヲ聽キ即チ本管ニ加除スヘシ(加除ノ申ノ籍ヲ送キ乙ノ籍
ニ入ルノ類ヲ云フ)

但其區ニ於テ將々加除スルハ勿論ナルヘシ

○第十二則 (四年八月十日布告ニテ削除)

○第十三則 (四年七月廿五日布告ニテ削除)

○第十四則 (同上ニ付別ル)

○第十五則 (同上ニ付別ル)

○第九則 凡籍籍スル者華士族皆是皆神官ハ戸長へ申立管轄處ノ證ヲ受テ平民ノ
戸長副印ノ証ヲ可與事

○第十則 他ノ管轄コリ此管轄所へ入籍スル時元ノ管轄所ノ証ヲ持參シ其入籍所
ノ戸長ニ其由ヲ述シ戸長其詳述ナキヲ糾シ其所ノ籍ニ入ルヘシ面シテ戸長其元
ノ證ヲ其入籍セシ事ノ由ヲ明々其應ニ届ケヘシ

○第十一則 管轄内申ノ區ヨリ之ノ區ニ移ルカ如キモ第八ノ第十則迄ノ例ヲ見合
スヘシ但管轄内申ヲ以テ送籍ハ戸長ヨリ之ヲ致シ入籍ノ上其入籍所ノ戸長ヨ
リ其應ニ届ケ其應ニ之ヲ聽キ即チ本管ニ加除スヘシ(加除ノ申ノ籍ヲ送キ乙ノ籍
ニ入ルノ類ヲ云フ)

但其區ニ於テ將々加除スルハ勿論ナルヘシ

○第十二則 (四年八月十日布告ニテ削除)

○第十三則 (四年七月廿五日布告ニテ削除)

○第十四則 (同上ニ付別ル)

○第十五則 (同上ニ付別ル)

○第廿六則 行帳ニ七日毎ニ扉送ハ其驛出陣驛過揚ノ改テ要自余ハ其日長ヘ出
 改テ受シヘシ旅籠屋ニ限テ大都ヲ逗留三日以上ハ其日長ニ届タ（人民附送ニ
 三都府ノ如キハ其時今日長ヨリ其屬ニ届ヘシ）九十日以上ハ逗留ニシテ（第廿二
 則ノ手續テナスヘシ）旅人病氣又ハ其ノノ留送ニ届出ルハ勿論ナリ
 但書同上ニ付制ル
 ○第廿七則 各地ニ出張スル官員出入シモ其管轄屬ヘ届タ其由表先ノ地方官ニ申
 出シヘシ
 但地方廳懸隔ラシ場所一時出張シ或ハ急送ノ事務得アルハ其手續テキコトナ
 ルヘシ

- 第廿八則 （七年第七十四號布告ニテ廢止）
- 第廿九則 （雜札ノ件ニ係ルテ以テ除ク）
- 第三十則 （十九年内務省令第二十二號ニヨリ除ク）
- 第三十一則 ○第三十二則 ○第三十三則 （同上ニ付除ク）
- 第三十四則 （十九年内務省令第十九號ニテ消滅）
- 第三十五則 ○第三十六則 ○第三十七則 ○第三十八則 （同上及ヒ同省令
 第廿號ニテ消滅）
- 第三十九則 此迄凡クト雖セマモノ處ハ縁故アリテ養育スルモノ等ハ其氏名ヲ

○第三十則 凡ク付居ハ階級受職ノ外ハ皆弟子ヲ以テ記スヘシ（明治五年正月
 十三日第四號ニ添リ付居ヘノ下二十一字ヲ削ク）
 ○第三十一則 （四年八月廿八日布告テ以テ削ラレシ）
 ○第三十二則 經テ書式ハ臣民トモ係一ナレハ彼是相違シ參用シテ處タナ
 ○第三十三則 經テ書式ハ臣民トモ係一ナレハ彼是相違シ參用シテ處タナ
 ○第三十四則 經テ書式ハ臣民トモ係一ナレハ彼是相違シ參用シテ處タナ

戸籍同列式ノ順

戸 祖 父 主
 高 祖 父 母
 會 祖 父 母
 親 父 母
 父 母
 子

以下書式略す

從	伯	兄	大	伯	從	又	從	從	甥	伯	大	姉	兄	玄	曾	孫	孫
品	叔	弟	伯	叔	弟	從	弟	弟	母	叔	叔	母	弟	弟	弟	弟	弟
以下	父母	父母	父母	父母	父母	父母	父母	父母	父母	父母	父母	父母	父母	父母	父母	父母	父母
夫妻	夫妻	夫妻	夫妻	夫妻	夫妻	夫妻	夫妻	夫妻	夫妻	夫妻	夫妻	夫妻	夫妻	夫妻	夫妻	夫妻	夫妻

○戶籍法中心地方 (明治三十五年一月)

府 縣

戶籍法中心地方區々相成候條并改正ノ條左ノ通ニ候條本書ニ照準テ取給可致事

○戶籍編制ノ事

戶籍編製ハ來申年正月晦日現在ノ人員ヲ根據トシ同二月一日ヨリ凡百日ノ間ハ在人員檢査ノ日限ナレハ右日限中ノ増減ハ翌年正月ノ取調ニ因テ致スヘキ事

○死者届方期限ノ事 (十七年二十五號葬地及埋葬取調規則ニヨリ消滅)

○戸長調給料ノ事 (市村制實施ニ付消滅)

○寄附ノ事

番頭ハ地所ニ寄附テ之ヲ致ラ然レハ戶長檢査檢ノ爲メ戶長ハ寄附ノ額ニテハ地方ノ便

○寄附ノ事

凡テ送附ノモノハ寄附ノ事候條并寄附金ノ戶長ヘ申立寄附金ノ額ヲ受テ平民ハ戶長

但申立ノ用入費爲メ出所地ニ去送附月分送附ノ額并ハ戶長ヨリ其處ヘ可相届事

○寄附ノ事 (明治三十五年內務省令第三號ニテ消滅)

○戸籍簿ノ事
明治十九年九月二十九號ニテ改正ニナル

○四年四月廿三日版籍紙簿ノ整理規則ノ内

第七條 才族等平民其外并脱走ノ者有之節ハ早速其節へ届出其親族組合等ニテ精
令調査之六箇月毎ニ檢査年五三十六ナリテ過キ者檢査不申候ハ永年其旨除籍致
候儀ハ不相成候事

○脱籍及行商知レサル者除籍ノ件

○條百七十七號達 (明治十九年五月)

脱籍及行商知レサル者家出後三十六ヶ月ヲ滿テ未歸中ノ者ハ戸籍表總計人員ノ
外ニ記載シ又管人年齢八十歳以上ニ相成候得ハ除籍ノ何レモ毎年大藏省へ可届出
候事

○無籍在監人脱籍

○内務省乙第三十九號達 (明治十五年六月)

無籍在監人ハ在監中定籍ノ手續ヲ爲サシムルニ及ハズ本人放還ノ時籍ヲ望ノ地ニ
定メシテ典獄ヨリ就籍地區戸長へ通知書ヲ作り本人チテ携帶就籍ノ手續ヲ行ハ
シムルハ此旨相達候事
但典獄ハ前年中監獄内無籍人ノ生死死亡ノ員數並ニ其年一月一日ノ現在員チ毎

年一月限リ在監地區戸長へ通知スルニ區戸長ハ之ヲ受ケ該地ノ人口ノ入算スル
シ

○戸籍表

○内務省令第三號 (明治十九年五月六日)

戸籍表左ノ通改正ノ第一ヨリ第七表マニハ本年ヨリ毎年十二月三十一日ヲ以テ調
査シ第八表ハ本年ヲ初トシ爾後六箇年日毎ニ十二月三十一日ヲ以テ調査シ各翌年
三月限リ差出スルニ

但明治十六年(十一月)當省乙第四十三號達ハ廢止シ表式用紙ハ送付セズ

(編者曰表式ハ十九年茨城縣令乙第貳號ニ概テ同シキヲ以テ畧ス)

○出生死去出入届出及寄留者届出方

○内務省令第十九號 (明治十九年九月二十八日)

明治四年四月四日布告戸籍法第五則出生死去出入等届出方及明治五年正月第四號
布告第八項寄留者届出方左ノ通相定メ奉ル十二月一日ヨリ施行ス

第一條 出生アリタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ

第二條 死者アリタルトキハ埋葬以前ニ届出ヘシ

第三條 失踪者復歸シ又ハ其行方知レタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ

第四條 廢戶主廢嫡改名復姓身分變換其他願濟ノ上戸籍ニ登記スルキ事項ハ其詳

可ノ指令ヲ受領シタル日ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

第五條 前條ニ記載シタル事項ハ戸主ヨリ届出ヘシ戸主未定又ハ不在ナルトキハ親族二人以上又ハ其事ニ關係アル者ヨリ本籍地戸長ニ届出ヘシ但本籍地外ニアリトキハ現在居戸長ニ届出且同時に本籍地戸長ニ届出ヲ送スヘシ

第六條 他府縣又ハ他郡區ニ寄留シタルトキ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ借地借家ニ於テハ寄留者及地主又ハ家主又ハ其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出且同時に本籍地戸長ニ届出ヲ送スヘシ

第七條 寄留地ヲ去ルトキハ自己ノ所有地ニ於テハ寄留者ヨリ借地借家ニ於テハ地主又ハ家主其地所其家ヲ管理スル者ヨリ十日以内ニ其地戸長ニ届出ヘシ

第八條 寄留者本籍地ニ歸リタルトキハ戸主又ハ本人ヨリ十日以内ニ届出ヘシ

第九條 正當ノ理由ナクシテ前條ニ違背シタル者ハ貳拾元以上罰金或ハ以下ノ科料ニ處ス

○戸籍取扱手續

○内務省令第廿二號 (明治十九年十月十六日)

戸籍取扱手續左ノ通相定ム

戸籍

第一條 戸籍ハ戸籍用紙ヲ以テ之ヲ造リ各戸ヲ別業ニ登記シ一町村毎ニ帳簿ニ編製スヘシ但便宜ニ因リ一町村ヲ數冊ニ分設シ又ハ數町村ヲ一冊ニ合設スルコトヲ得

第二條 戸籍簿ハ副本ヲ造リ郡役所ニ納メ置クヘシ區長ニ於テ戸籍ヲ取扱フトキハ之ヲ管轄廳ニ納メ置クヘシ

第三條 若シ登記ノ事項多クシテ欄内ニ餘白ナキトキハ用紙ヲ以テ其欄上ニ添紙シ之ニ登記スヘシ但本紙トノ縦目ニハ官印ヲ捺スヘシ

第四條 戸籍ハ字畫ヲ明瞭ニ記載シ濫ニ添削スルコトヲ得ス若シ錯誤脱漏ニ依リ添削スルトキハ之ニ認印ヲ捺シ且其刪ルヘキモノハ朱線ヲ畫シ原文ヲ存スヘシ

第五條 戸籍簿ノ改製ヲ要スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ受ケテ之ヲ爲スヘシ

第六條 戸籍簿焼亡紛失シタルトキハ郡役所又ハ管轄廳ニ納メ置キタル副本ニ據リ編製スヘシ

第七條 戸籍簿ノ改製又ハ編製ヲ爲シタルトキハ郡長又ハ管轄廳ニ差出シ其検査ヲ受クヘシ再改製ニ係ル原戸籍簿ハ少クモ五十年間之ヲ保存スヘシ

登記

第八條 戸籍ニ關スル届書ヲ受領シタルトキハ先ツ届出ノ事項及届出期限アリトシテ其事項ノ年月日並届出ノ年月日届出期限ナキモノハ其届出ノ年月日ヲ登記

戸籍一冊に入スヘシ但本籍地外ニ在ル者ニ係ル事項ニシテ届出期限アルモノハ届出書送及受領ノ年月日ヲモ之ニ記入スヘシ

第九條 登記目録ハ左ノ三種ニ分チ毎年一種毎ニ之ヲ編製スヘシ但一種中ニ部門ヲ設ケ之ヲ分級スルモ妨ナシ

一 加籍目録

一 除籍目録

一 異動目録

第十條 第八條ノ手續ヲ了リタルトキハ直ニ戸籍ニ届出ノ事項及届出期限アルモノハ其事項ノ年月日届出期限ナキモノハ届出ノ年月日ヲ登記シ届書ニハ受領ノ年月日及登記簿ノ旨ヲ記入スヘシ

第十一條 戸籍ニ入ル者アルトキハ其戸籍ノ末ニ登記スヘシ戸籍ヲ除ク者アルトキハ其事項ヲ朱ニテ登記シ且其氏名ニ朱線ヲ畫スヘシ

第十二條 全戸入籍スル者アルトキハ直ニ戸籍簿ニ編入スヘシ

第十三條 全戸除籍スル者アルトキハ朱ニテ登記シ其戸籍ニ朱線ヲ畫シ便宜之ヲ除籍簿ニ移スヘシ

第十四條 戸主ニ代替アルトキ家族ハ總テ新戸主ノ続柄ヲ以テ戸籍ヲ改寫スヘシ但舊紙ニ官印ヲ以テ新紙ト印刷シタル上除籍簿ニ移シ綴ルヘシ

第十五條 戸籍ニ登記シテ請願ニ記入シタルトキハ總テ之ニ認印ヲ捺スヘシ又請願ハ一箇月分ヲ預定身限ニ翌月中ニ郵送送付受領ノ管轄官署ニ其旨スヘシ但郵送所又ハ管轄官署ニ於テハ戸籍簿ヲ改製スル時マテ之ヲ保存スヘシ

送籍一入籍

第十六條 送籍ヲ請求スル者アルトキハ戸籍用紙ヲ以テ送籍狀ヲ作り直ニ入籍地ノ戸長(區ハ區長)ニ發送シ且其送籍ノ事項及發送ノ年月日ヲ登記目録ニ記入スヘシ

第十七條 人別ノ送籍狀ニハ其人別ニ關シ戸籍ニ登記シタル事項及戸主ノ氏名身外住所ヲ記載スヘシ

第十八條 全戸ノ送籍狀ニハ戸籍ニ登記シタル事項ヲ遺漏ナク記載スヘシ

第十九條 入籍ヲ届出ルトキハ原籍地戸長(區ハ區長)ヨリ送達シタル送籍狀ト照査シ入籍ノ手續ヲ爲シ五日以内ニ入籍告知書ヲ原籍地戸長ニ發送スヘシ原籍地戸長ニ其受領シタルトキハ其受領ノ年月日ヲ登記目録送籍狀發送年月日ノ下ニ記入シ直ニ右人籍ノ日ヲ以テ除籍スヘシ

寄留

第二十條 寄留地又ハ他郡區ヨリ寄留シタルノ届出アルトキハ入寄留簿ニ登記ス

一、前住地ノ入寄留簿
一、後住地ノ入寄留簿
一、寄留地ヲ去リタルノ届出アルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線
一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線
一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線

一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線
一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線
一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線

一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線
一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線
一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線

一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線
一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線
一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線

一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線
一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線
一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線

一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線
一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線
一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線

一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線
一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線
一、寄留地ヲ去リタルトキハ朱ニテ記入シ或ハ寄留人ノ一筆線

此欄内ニハ住所ヲ記ス
此欄内ニハ前住地ノ入寄留簿
此欄内ニハ前住地ノ入寄留簿

此欄内ニハ身分ヲ記ス
此欄内ニハ身分ヲ記ス
此欄内ニハ身分ヲ記ス

此用紙、美濃紙或ハ美濃ニ類スル紙ヲ用ユヘシ
戸籍用紙様式第一

入寄留簿用紙第一

此欄内ニハ寄留地持家者ヲ記ス

此欄内ニハ寄留地持家者ノ姓名ヲ記ス

此欄内ニハ本籍ヲ記ス

此欄内ニハ族籍ヲ記シ及寄留者ノ戸主ノ氏名ヲ記ス

此欄内ニハ父母ノ名及三男子女子事又ハ夫ノ名ヲ記ス

此欄内ニハ戸主又ハ世帯主ノ氏名ヲ記ス

此欄内ニハ生年月日ヲ記ス

此欄内ニハ本人ノ名ヲ記ス

此欄内ニハ本籍及族籍ヲ記ス

此欄内ニハ生年月日ヲ記ス

入寄留簿用紙第二

此欄内ニハ生年月日寄留地及退去等ヲ記ス

此欄内ニハ本籍及族籍ヲ記ス

此欄内ニハ生年月日寄留地及退去等ヲ記ス

此欄内ニハ本人ノ名ヲ記ス

正寄留... 於... 手... 心...
○附... 及寄留...
明治十九年十月十六日

北海道廳
府 縣

省令二十二號... 依... 管轄... 及... 郡役所... 結... 所ノ...
○本... 寄留...
明治十九年十月二十六日

北海道廳
府 縣

內務省令第十九號... 依... 本... 寄留... 者ヨリ... 差出... 左ノ... 如ク...
明治十九年十一月十日

○附... 寄留... 者ヨリ... 差出... 左ノ... 如ク...
明治十九年十一月十日

北海道廳
府 縣

○附... 寄留... 者ヨリ... 差出... 左ノ... 如ク...
明治十九年十一月十日

○第五十號布告 (明治八年四月)
各地方寄留ノ者... 管轄... 差出... 候儀ハ... 其便宜ニ任スヘキ事
○同... 分... 上本... 運...

○第五十五號達 (明治八年四月)

各地方寄留ノ者諸願伺届等自今其寄留地ノ管廳ニ於テ取扱處分濟ノ上本管廳へ通達可致此旨相達候事

但本貫ノ地所ニ係リ或ハ家祿奉還等ノ如キ實地取調ノ上ニ無之テハ難及處分事件ハ本管廳へ協議ノ上便宜ノ應ニ於テ可取扱事

○同上本籍郡區戶長へ通報

○內務省乙第三十二號達 (明治十五年三月)

寄留人願伺届取扱方ノ義ニ付明治八年第五十五號公達ノ旨モ有之候處郡區編制地方職制定相成候ニ付テハ該願伺届ノ內郡區長又ハ戶長ノ取扱ニ屬スルモノハ該公達ニ准シ郡區長又ハ戶長處分ノ上其旨本籍郡區長又ハ戶長ニ通報可及義ト心得ヘシ此旨相達候事

○平民苗字被差許

一明治三年九月十九日布告

自今平民苗字被差許候事

○國名舊官名通稱ニ用ユル儀停メラル

一明治三年十一月十九日布告ノ內

一國名並舊官名ヲ以テ通稱ニ相川候儀被停候事

○通稱名乘兩様用ニ來ルモノ一名カキテ

○第四百十九號布告 (明治五年五月)
從來通稱名乘兩様相川來候輩自今一名クルヘキ事

○苗字名屋號共改稱不相成

○第二百三十五號布告 (明治五年八月)

華族ヨリ平民ニ至ル迄自今苗字名並屋號共改稱不相成候事

但同苗同名等無餘儀差支有之者ハ管轄廳へ改名可願

○改稱間届方

○第二百三十六號布告 (明治五年八月)

人民一般改稱ノ儀別紙ノ通御布告相成候ニ付テハ華族及表任官以上ハ可届出其餘ハ各管轄廳ニ於テ事實取調ノ上間届可申事

(編者曰別紙トハ前項ノ三十五號布告ヲ指スモノナリ)

○年齢計算ノ件

○第三十六號達 (明治六年二月)

自今年齡ヲ計算候儀幾年幾月ト可相數事

但舊曆中ノ儀ハ一千支ヲ以テ一年トシ其生年ノ月數ハ本年ノ月數ト通算ノ十二

夕月ヲ以テ一年ト可致事

○滿二十年ヲ以テ丁年ト定ム

○第四拾一號布告 (明治九年四月)

自今滿二十年ヲ以テ丁年ト相定候條此旨布告候事

○華士族家督相續

○明治三年潤十月十七日達

一士族ノ輩年五十歳ヨリ隱居願之儀可爲勝手事

一實子無之候ハ、年齡ニ不拘養子願ノ儀可爲勝手事

右之通更ニ被仰出候條此旨相達候事

○士族養子

○明治三年潤十月十七日布告ノ内

一士族ノ輩年五十歳ヨリ隱居願可爲勝手事

實子無之候ハ、年齡ニ拘ハラス養子願ノ儀可爲勝手事

右之通更ニ被仰出候條此旨相達候事

○士族實爲養子願ノ件

○明治四年四月廿三日布告

士族ノ輩實爲養子願出候節ハ戶籍法第八則ノ通處分請ノ上以地方官ヨリ其時々可
届出定員籍表加除ノ儀ハ第五則ノ通河相心得事

○華士族子弟厄介ノ輩民籍へ加入ノ件

○第五百十五號布告 (明治五年四月)

自今華士族子弟厄介ノ輩民籍へ加入爲致候儀可爲勝手事

○華士族平民互ニ養子取組不苦

○第七號布告 (明治六年一月)

自今華士族平民互ニ養子取組不苦候事

在籍地ハ富内省へ直チニ出願セシメ士族平民ハ戸長へ可届出事

○目下ノ家ヲ繼承スル時ハ相続人ト稱スル件

○第二十八號達 (明治六年一月)

實見伯叔總テ目上ノ者子弟等ノ目下ノ家ヲ繼承スル時ハ相続人ト稱シ養子ト稱
スヘカシム

○華士族家督相續

○第二十八號布告 (明治六年一月)

自今華士族家督相續ノ儀ニ付左ノ通被相定候條此旨相達候事

家督相續ノ必ス總領ノ男子タル可シ若シ亡没或ハ廢篤疾等不得止ノ事アリハ其

九年二月十八日
同日十月十八日
八年改
正ノ改

六分

事實ヲ詳ニシ次三男又ハ女子ニ養子相續願出ツヘシ次男三男女子無之者ハ血統ノ者ヲ以テ相續願出ツヘシ若シ故ナク順序ヲ越テ相續致ス者ハ相當ノ者可申付事
幼少ニテ家督爲致候節ハ親戚又ハ他人ニテモ相當ノ者相繼後見可爲致事
當主隱居致シ實子又ハ養子家督相續致シ候上其相續人多病或ハ不埒ノ儀有之候又ハ病化致シ最前ノ隱居壯健ニテ再相續願出候節ハ聞届不苦事
但再相續人ト可稱事

當主壯年ナレトモ疾病其外無據事故有之養子致シ候處前當主疾病平癒又ハ事故相續候節再家督致シ右養子ハ實家ニ立戻リ候敷又ハ當主他ヘ縁付候共双方熟談ノ上願出候ハ聞届不苦事

本家分家親戚等ノ内當主病死致シ云々(合家ノ條ニ付削ル)

父兄伯叔總テ目上ノ者子弟甥等ノ下ノ家ヲ繼承スルトキハ相續人ト稱シ養子ト稱ハヘカラス

當主死去跡嗣子無之婦女子ノミニテ已テ得サレ事情アリ養子難致者ハ婦女子ノ相續差許從前ノ給祿可支給事

婦女子相續ノ後ニ於テ夫ヲ迎ヘ又ハ養子致シ候ハ直ニ其夫又ハ養子ニ相續可相續事

本家分家親戚等ニ非スシテ云々(合家ノ條ニ付削ル)

右之通ニ候條華族ハ管轄廳ヨリ正院ニ相伺士族ハ管轄廳ニ於テ聞届可申事

○華士族分家並家族民籍加入

○第七拾參號布告 (明治七年七月)

自今華士族分家ノ者ハ平民籍ニ編入候條此旨布告候事

但分祿ノ儀ハ不相成其宗家祿高ノ中適宜給與候儀ハ勝手ナルヘキ事

○合家禁止

○第七十五號布告 (明治九年五月)

明治六年(二月)第二十八號第五項及同年(八月)第三百壹號ヲ以テ合家ノ儀布告

候處許諾ノ次第有之自今被禁止候條此旨布告候事

但從前既ニ合家セシ分ハ今后左ノ通可取扱事

一分家セント欲スル者ハ其合家セシ本人ノ一代中ニ限り復籍スルコトヲ許ス其子孫ニ至テハ七年第七十三號布告分家ノ例ニ據ルヘシ

一戶籍記載方及刑律上ノ關係ニ於テハ戶主ノ血屬ハ尊親ニ依リ其血屬ナキハ等親外ノ親屬タルヘシ

一七族平民合家セシモノハ舊テ士族ニ編入スヘキ事

○養子相續

○第七十八號布告 (明治九年六月)

實子... 以テ相續人トシ子女アルノ寡婦夫ヲ迎ヘテ前夫ノ跡相續人ト定ムル... 一親難差許定規ニ候得共華士族ヲ除クノ外現實極貧或ハ老病等ニテ實子孫アリト雖モ幼少ナルカ又ハ有子ノ寡婦タリモ極貧或其子女幼少且後見スヘキ者モ無之歟ノ場合ニテ親族協議ヲ以テ願出候節不得止事情ニ係ル者ハ地方官限リ聽許不苦此旨相達候事

○第六十號達 (明治十年八月) 家名ヲ廢シ他へ入夫等聞届ノ件

使 府 縣

男女ノ戸主(其身實子養子家女他女若クハ相續人タルヲ問ハズ)其家名ヲ廢シ他へ入夫縁付或ハ養子女トナリ又ハ實家へ復籍等願出候ハ、地方官限リ聞届不苦此旨相達候事

但華族ハ此限ニアラス

○士族養子相續

○第九十九號達 (明治十年十二月)

平民養子相續人等ノ儀ニ付明治九年(六月)第五十八號ヲ以テ相達候處士族ト雖モ

使 府 縣

同機取言不苦候條此旨更ニ相達候事

○士族家督相續養子實籍替戸長へ届出

○第八號達 (明治十二年二月)

士族家督相續養子實籍替ノ儀是迄管轄廳へ出願シ來リ候處自今出願ニ及ハヌ直ニ戸長へ届出シムヘシ此旨相達候事

使 府 縣

但廢嫡ニ屬シテ特許ヲ經ヘキモノハ從前ノ通ナルヘシ

○華士族當主死亡後族稱廢絶期限

○第三號布告 (明治十二年一月)

華士族當主死亡後相續人無之親族協議ノ上家名預リ置退テ相續人ヲ定ムルハ當主死亡后日數五十日ヲ過クヘカラス若不得已事情有之親族連印管轄廳へ延期願出ルモノハ更ニ相當ノ猶豫ヲ與フルト雖モ死亡後六ヶ月ヲ過キ仍ホ相續人ヲ届出サルトキハ其族稱ハ廢絶候儀ト可相心得此旨布告候事

○絶家期限

○第二十號布告 (明治十七年六月)

單身ノ戸主死亡又ハ除籍ノ日ヨリ滿六ヶ月以内ニ跡相續者ヲ届出サル者ハ絶テ絶

右奉 勅旨布告候事

○絶家相續期限

○第四號布達 (明治十七年六月)

今般第二十號布告ヲ以テ絶家期限制定候ニ付テハ從前死亡又ハ除籍シタル者ハ該布告施行ノ日ヨリ滿六ヶ年以内ニ跡相續ヲ届出ル事ヲ得
右布達候事

○私生ノ子

○第二十一號布告 (明治六年一月)

妻妾ニアラサル婦女ニシテ分娩スル兒子ハ一切私生ヲ以テ論シ其婦女ノ引受シル
ヘキ事

但男子ヨリ己ノ子ト見留メ候上ハ婦女住所ノ戶長ニ請テ免許ヲ得候者其子其男
子ヲ父トスルヲ得ヘシ

○華族平民互ニ婚姻差許サル

○明治四年八月廿三日布告

華族ヨリ平民ニ至ル迄互ニ婚姻差許サレ候條双方願ニ不及其時々戶長ハ可届出候事

但送籍方ノ儀ハ戶籍法第八則ヨリ十一則迄ニ照準可致候事

○外國人ト結婚

○第三百三號 (明治六年三月)

自今外國人民ト婚姻差許左ノ通條規相定候條此旨可相心得事

一日本人外國人ト結婚セントスル者ハ日本政府ノ允許ヲ受クヘシ

一外國人ニ嫁シタル日本ノ女ハ日本人タルノ分限ヲ失フヘシ若シ故有ツテ再ヒ日
本人タルノ分限ニ復センヲ願フ者ハ免許ヲ得能フヘシ

一日本人ニ嫁シタル外國ノ女ハ日本ノ國法ニ從ヒ日本人タルノ分限ヲ得ヘシ

一外國人ニ嫁スル日本ノ女ハ其身ニ屬シタル者ト雖モ日本ノ不動産ヲ所有スル
ヲ許サス

但シ日本ノ國法並ニ日本政府ニテ定メタル規則ニ違背スルヲナクハ金銀動産
ヲ持携スルハ妨ケナシトス

一日本ノ女外國人ヲ婿養子ト爲ス者モ亦日本政府ノ允許ヲ受クヘシ

一外國人日本人ノ婿養子トナリタル者ハ日本國法ニ從ヒ日本人タルノ分權ヲ得ヘ
シ

一外國ニ於テ日本人外國人ト結婚セントスル者ハ其國或ハ其近國ニ在留ノ日本公
使又ハ領事官ニ願出許可ヲ乞フヘシ公使及ヒ領事官ハ裁下ノ上本國政府ヘ届出

○夫ノ肯セサル離縁

○第百六十二號 (明治六年五月)

夫婦ノ際已ムテ得サルノ事故アリテ其婦離縁ヲ請フト雖モ夫之ヲ肯セス之レカ
ノ數年ノ久テ終ニ嫁期ヲ失ヒ人民自由ノ權理ヲ妨害スル者不少候自今右様ノ
事件有之於テハ婦ノ父兄弟或ハ親戚ノ内附添直ニ裁判所へ訴出不苦候事

○第百九號達 (明治六年十二月)

使 府 縣

婚姻又ハ養子女ノ取組若クハ其離縁假令相對熟談ノ上ダリテ双方ノ戶籍ニ登
記セサル内ハ其効ナキ者ト見做スヘク候條右等ノ届方等閑ノ所業無之樣精々説諭
可致置此旨相達候事

○遺留財産

○内務省海外達 (明治十七年一月十日)

失踪逃亡死亡及絶家ノ財産ヲ戶長ニ於テ保管スルトキハ財産目錄ヲ作り郡區長ニ
差出候様可致此旨相達候事

○遺留財産賣却交換買書入等不動産ニ付テハ始審裁判所ノ認許ヲ得可

○司法省訓令第十號 (明治廿一年七月十四日)

裁 判 所

失踪又ハ死亡跡遺留財産ヲ其親族ニ於テ保管スル場合本人又ハ其家ノ利害ニ關シ
協議ヲ以テ賣却交換若クハ質入書入等ヲ爲サントスルモ不動産ニ付テハ自今都
管轄始審裁判所ノ認許ヲ受クヘキ儀ト心得可

○同上認許請求書差出方

○司法省訓令第十五號 (明治廿一年十月三十日)

裁 判 所

親族ノ保管ニ係ル失踪又ハ死亡跡遺留財産ノ賣却交換若クハ質入書入ニ關スル認
許請求書ハ保管人又ハ其代人出頭ノ上差出ス可キ儀ト心得ヘシ

○司法省訓令第十七號 (明治二十一年十二月七日)

始審裁判所 治安裁判所

親族又ハ區戶長ニ於テ保管スル失踪逃亡並死亡者ノ遺留財産處分ノ件ハ自今始審
裁判所所在地ヲ除クノ外管轄治安裁判所ニ認許ヲ乞フコトヲ得治安裁判所上席判
事ハ始審裁判所長ノ代理心得テ以テ認許ヲ與フ可

○第三款 失踪逃亡者及遺留財產

○逃亡失踪者尋方不申付

○丙第百拾七號 (明治十一年十一月廿一日)

逃亡失踪ノ者届出候節ハ其親族組合へ六ヶ月限り尋方申付以後六ヶ月毎ニ摸檢届出三十六ヶ月ヲ過キ不尋得者ハ永尋申付候處自今尋方不申付候條親族組合ニテ精々搜索可致此旨布達候事

但本人逃亡失踪ノ始末及復歸ノ節届出方ハ勿論事務扱所ニ於テ戸籍記入ノ儀ハ從前之通り可相心得事

○失踪逃亡絶家等ノ財産保管スルキ目錄差出

○丙第十一號 (明治十七年一月廿六日)

失踪逃亡死去及絶家ノ財産ヲ戸長ニ於テ保管スルトキハ財産目錄ヲ作り郡長ニ差出候様可致此旨相達候事

○第四款 無籍在監人編籍

○丙第五拾號 (明治十五年八月十二日)

郡 役 所
戸 長 役 場
長

無籍在監人放逐ノ時籍ヲ望み地ニ定メ以テ本人ハ其ノ籍ヨリ就籍地ノ戸長ヘノ通知書ヲ發行セシメ候條編籍ノ手續發行候旨此旨相達候事

但前年中監獄内無籍決ノ困生死世以負數計其年一月一日ノ現員ヲ毎年一月限典獄官並に監地ノ戸長ニ通知スルニヨリ該地ノ人口ニ算入スヘシ

一 半ノ日 第五款 行旅病人

一 行旅病人及重病者取扱手續

○次城縣令第四號 (明治十九年十一月十七日)

一 行旅病人

行旅病人及重病者取扱手續左之通改定ス

但シ傳染病ニ罹リタル者及陸海軍旅行免狀證標宿泊證書ヲ所持スルモ此限ニテテ却テ傳染病ニ罹リタル者及陸海軍旅行免狀證標宿泊證書ヲ所持スルモ此限ニ

一 行旅病人及重病者取扱手續

第一條 行旅病人及重病者取扱手續

取扱手續

一 金六拾錢

一 但病者用

- 一金拾五錢
- 診察料
- 但一回分
- 食料及諸費
- 一金三拾五錢
- 但食料藥價看護人賃其他雜費一日分
- 假埋葬費
- 一金青圓
- 但棺桶棒繩揭示札墓標人夫其他諸費
- 新聞公告料
- 一金何程
- 但二回分實費

第二條 行旅死亡人及重病人アル時ハ遺留書類又ハ口述ニヨリ左ノ廉々取調ヘシ

一族職業氏名

一原籍府縣郡區町村番地

一戸主又ハ其長二男女

一生前年月日又ハ年齢

一改氏名セシコトアレハ舊氏名

一養子女ナレハ生家ノ國郡區町村番地氏名

一付籍又ハ寄留地ノ國郡區町村番地氏名

一祖父母父母兄弟姉妹其他親族ノ國郡區町村番地氏名

一隣保ノ氏名

一原籍附籍寄留地發途ノ原由年月日并ニ行旅先其他原籍取調ニ必用ト認ムル者

第三條 行旅重病者アル時ハ醫師ヲシテ診斷セシメ左ノ廉々診斷書中ニ記載セシム

一病名

一原因

一徵候(歩行難易)

一豫后

第四條 行旅死亡人及重病者原籍不詳ナル時ハ二箇ノ新聞紙ニ各一口ツ、公告スヘシ

第五條 行旅死亡人ノ遺金及遺物アルトキハ調査ヲ作ルヘシ若シ本人無籍ナル時ハ其遺金及遺物公賣代金ヲ以テ埋葬等ノ費用ニ充ツヘシ

第六條 假埋葬及救護ノ費用ハ第一條ノ額内ヲ以テ支弁スト雖トモ一品一個當テ計算書ヲ調成スヘシ

第七條 行旅死亡人原籍詳ナル時ハ第二條第五條第六條ノ書類ニ醫師檢案書寫ヲ添

ハ費用ノ償還遺物ノ取扱方ヲ原籍ヘ照會スヘシ

第八條 行旅重病人アル時ハ相當救護ヲ加ヘ第三條第三條書類ヲ添ヘ本人引取方原

遺金	埋葬費		合計				私費				
	合計		本籍詳ナル者		本籍詳ナラサル者		本籍詳ナル者		本籍詳ナラサル者		
	私	公	私	公	私	公	女	男	女	男	

○行旅死亡人及行旅病人ノ携帶セル幼年者救助費
 ○乙第五十九號 (明治十九年五月廿九日)

行旅死亡人及行旅病人ノ携帶セル幼年者等救助ノ費ハ本人又ハ家元ヨリ弁償セム
 ヘント雖モ赤貧ニシテ辨償シ能ハサルトキハ恤救規則ニ依リ給與シ若シ其増費ヲ要
 スレカ又ハ該規則ニ適當セサルモノハ本籍地方稅教育費ヲ以テ支辨スヘキ義ト心得

郡 役 所
 戸 長 役 場

○棄兒養育費表式

○茨城縣令丙第五十七號 (明治廿一年十一月十九日)

郡 役 所

棄兒並養育費表差出方明治十九年(十二月)本縣丙第四十號ヲ以テ相達置候處其表式
 左之通改定ス

但差出期限ハ從前之通

棄兒並養育費 (明治何年) 何郡役所

費途	人		員	養育費	合計
	前年ヨリ越新クニ養育ヲ廢セ在	高シ者			
官費					
私費					
合計					

一官費人員ノ欄ニハ專ラ官費養育ニ係ルモノ及公費(地方稅町村費)ヲ以テ官費ヲ補助スル所ノモノヲ合記スヘシ
 一新クニ養育セシ者ノ欄ニハ拾ヒ上ケシ者及他管ヨリ轉入若シハ官費ヨリ私費

私費ヨリ官費ニ移リシ者等ヲ掲ケ養育ヲ廢セシ者ハ滿十三年ヲ過キシ者又ハ他人ノ養子女トナリシ者(養育費ヲ受クル者ヲ除ク)及他管へ轉出又ハ死亡又ハ私費トナリテ官費ヲ止メ官費トナリテ私費ヲ止メシ等ノ者ヲ掲クヘシ
一棄子ニ準シ養育料ヲ支給セシ者アルキハ總テ本表へ合記スヘシ

○養育米定額

○太政官御達 (明治四年八月廿日)

從來棄兒救育ノ儀所預リノ分ハ養育米被下實受人有之分ハ不被下候處自今預リ實受ニ不拘棄兒當歳ヨリ十五歳迄年々米七斗、被下候間實意養育可致事

○生年月見定ノ件

○第百三十八號布告 (明治六年四月廿五日)

棄兒養育米ノ儀辛未六月申相達候過十五歳迄年々米七斗宛被下候處自今滿十三年ヲ限リ被下候條生年月日見定ノ儀ハ其所戸長等宜合身體骨格等寫ト檢査シ本年第三十六號布告ニ照シ年相續定候條可致事

○養育米相場

○內務省乙第五十六號 (明治七年九月)

養育米ノ價正米無之節ハ實納石代直段ヲ以テ金渡可致旨壬申年大藏省第百四

府 縣

十五號ヲ以テ相達候處自今正米無之節ハ其地前月下米相場ヲ以テ渡方可取計且候條事
但本年十月一日ヨリ渡方本條ノ通り相達候事

○養育ノ寄留人養育米下渡方

○內務省乙第五十二號 (明治十年五月)

府 縣

棄兒養育費候寄留人へ養育米渡方ノ儀自今寄留人へ其寄留地ノ管轄屬ヨリ可下渡此旨相達候事

○養育米恤救米給與方

○內務省乙第六拾三號 (明治八年四月)

府 縣

昨七年十二月中第百六十二號公布恤救米及棄兒養育米等類ヲ有代金下渡方ノ儀各府ニ於テ本人共ハ三ヶ月分ヲ取東テ其初月ニ后チノ兩月ヲ替シ渡方可取計且疾病等ニテ日常給米ノ分ハ凡一ヶ月ヲ其月始メニ繰上ケ相渡候儀ハ不苦候條概費ヲ以テ支給シ茲本年七月ヨリハ額外常費ヲ以テ可仕拂此旨相達候事

但本文三ヶ月分取東相渡候節ハ總テ前月ノ下米相場ヲ以テ代給與可致候且本人病死等ノ節ハ其過相渡候分運納ニ不及候事

嫡孫承祖	五十三日	全	母方	遠慮一日
甥	三十日	祖	父母	三十日
從父兄弟姊妹	三十日	全	母方	百五十日
高祖父母	三十日	離	別祖母	二十日
全	遠慮一日	妻	息服	九十日
曾祖父母	二十日	子	アレハ	三十日
父母	九十日	遠	慮	三日

一 父ノ服忌滿タカレ内ニ母ノ服忌ニカ、ルトヤハ母死去ノ日ヨリ定式ノ忌服ヲ受ケル

一 重キ服忌ノ内ニカ、ルトハ重キ服忌ノ内ニテ償アヘシ

一 遠方ヨリ歸ラセ來レハ父母ハ聞キタル日ヨリ定式ノ忌服ヲ受ケル其余ハ親ノ日數ヲ受ケル

一 小兒七歳未満ハ忌服ナシ其父母ハ三日遠慮スヘシ

○參照

○恤救規則

○太政官勅諭第百六十二號 (明治七年十二月)

窮乏恤窮ハ人民相互ノ情誼ニ因テ其方法ヲ設ヘキ善ニ候得共目下難苦實無告ノ窮民ハ自今各地ノ遠近ニヨリ五十日以内ノ分左ノ規則ニ照シ取計備委由内務省ニ可伺出此旨相達候事

○恤救規則

- 一 極貧ノ者獨身ニテ癘疾ニ罹リ産業ヲ營ム能ハサル者ニハ一ケ年米一石八斗ノ積ヲ以テ給與スヘシ
- 一 但獨身ニ非スト雖トモ餘ノ家人七十一年以上十五年以下ニテ其身癘疾ニ罹リ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ
- 一 全獨身ニテ七十一年以上ノ者重病或ハ老衰シテ産業ヲ營ム能ハサル者ニハ一ケ年米一石八斗ノ積ヲ以テ給與スヘシ
- 一 但獨身ニ非スト雖トモ餘ノ家人七十一年以上十五年以下ニテ其身重病或ハ老衰シテ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ
- 一 全獨身ニテ疾病ニ罹リ産業ヲ營ム能ハサル者ニハ一日米男ハ三合ノ割ヲ以テ給與スヘシ
- 一 但獨身ニ非スト雖トモ餘ノ家人七十一年以上十五年以下ニテ其身病ニ罹リ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ

一全獨身ニテ十三年以下ノ者ニハ一ケ年米七斗ノ積ヲ以テ給與スヘシ
但獨身ニ非スト雖トモ餘ノ家人七十年以上十五年以下ニテ其窮迫ノ者ハ本
文ニ準シ給與スヘシ

一救助米ハ該地前月ノ下米相場ヲ以テ石代下ケ渡スヘキ事

○内務省御達乙第八十五號 (明治八年七月)

窮民恤救之儀ニ付テハ昨七年第百六十二號ヲ以御達ノ趣モ有之候處爾後右等ノ
窮民共救助筋申請ノ砌ハ左ノ箇條ニ照シ篤ト調査ノ上可伺出此旨心得トシ相違候
事

第一條

一恤救規則ニヨルヘキモノハ獨身老幼癩疾疾病等ニテ何等ノ業モ爲ス不能事實
赤貧ニシテ曾テ他ニ保育スル者モ無之全ク無管ノ窮民ノミニ限ルヘシ然ルニ
唯在癩癩疾等ノ名義ニヨリ救助伺出ル等ノ條コレアリテハ恤救規則ノ趣旨ニ
モ乖反再該ニ付假令七十一年以上又ハ癩疾ノ者タリトモ其業ニヨリテハ生産ノ
道可相立者ナリトモサレハ篤ト現場ノ實況ヲ査定シ眞ニ不得止者ノミ具狀イ
タスヘシ

第二條

一全上ニヨリ是地其市村内或ハ隣保ノ傳聞ヨリ互ニ協救仕來ル如キハ別段官ノ

給與ヲ不乞テ以本旨トスヘシ

第三條

一全上ニヨリ互ニ協救スルト雖モ若シ其手當不足ニシテ其内幾分ヲ官ヨリ不備
ハ補助スル不能等ノ如キハ其幾分給助ノ次第及ヒ右救金員ニ至ル迄詳悉記載
申出ヘシ

第四條

一全上ニヨリ十三年以上七十年以下ノ者疾病中救助米賜ルト雖モ全快ノ期ヲ篤
ト調査シ痊愈支給等無之様注意イタスヘシ

第五條

一全上ニヨリ疾病或ハ病者トノミ記載申請ノ向モ有之候得共爾後左ノ雛形ニ準
シ詳悉記載別紙ニ製シ具申致スヘシ
但規則脇書ニ之アル餘ノ家人アラハ本文雛形ニ記載スル本人名前ノ左傍ニ
委詳書記スヘシ

第六條

一全上ニヨリ五十日以内給與シ申請ノ節 何月幾日ヨリ 何日分ト記載伺出ヘシ
全幾日マテ

第七條

一全上ニヨリ伺濟ミノ上其石割ヲ以給與セムルハ勿論ナレト雖ハ一ケ年一石

八斗ヲ目途ニ立其以内ヲ以テ足レリトスルカ如キハ其數量實地至當ニ斟酌
適宜ノ所分必不苦候間其旨精細具狀イタスヘシ

第八條

一老幼癡疾疾病等ニテ獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十年以上十五年以下ニシテハ
本人ノミハ獨身ニ準シ給與スヘキ成規ノ處若シ餘ノ家人癡疾疾病老幼ニテ專
實難拾置情故アラハ其者共ヘモ救助セシムルコトモアルルキニ付其旨趣以
具狀スヘキ併ニ右様ノ場合ニ於テ一家數人ノ救助ニ及フトキハ各自給與テ致
サストモ其適度ニ斟酌シ可成丈減省ヲ見込ヨ伺出ツヘキ
用紙美濃

恤救名簿

某縣府

某縣下何大區何小區

某國某郡某町

應或ハ誰亡長男女數

工又ハ元何藩士族亡其父母兄弟姉
商妹ノ額當時平民數其外厄介數

一 癡疾

生來ニ癡疾ニテ其名稱及年月日現職或ハ市村內隱保等ノ情
證ヨリ助力ヲ受ケシ處右不行局ノ次第又ハ醫ハ破産盲目ノ類
但ニテ手業ヲ以テ生計營ミ來リシカ終ニ爲ス能ハス去リ連能ニ
保養スヘキ者無之云々等其事實詳悉記載スヘキ
何年何月ヨリ何ノ事全斷事故全斷

一 疾病

但何年何月ヨリ何症ニ罹リ前全斷 何 歲

一 幼弱

但何年何月ヨリ父母親戚等ニ離別ノ事故等前全斷 何 歲

一 老衰

但前ニ做フ 何 歲

右之通有之候也

何年何月何日 府 長官名印

(編者曰ク八年丙大乙第六十三號十年四月検査局達前案ニアリ參考スヘキ)

○第廿六章 教育

○第一款 尋常師範學校

○尋常師範學校ノ學科及其程度實施方法

○茨城縣令甲第三拾壹號 (明治十九年十一月十六日)

茨城縣尋常師範學校ニ於テ文部省令第九號尋常師範學校ノ學科及其程度ヲ實施スル方法左ノ通相定ム

茨城縣尋常師範學校ノ學科及其程度實施方法

第一條 師範學校ノ學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルチ一學級ノ期限トス

第二條 師範學校毎日ノ課業時間ハ六時間トス
但土用日ハ四時間トス

第三條 師範學校ノ休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ
日曜日 大祭日 祝日 冬季休業 (十二月廿五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル)
夏季休業 (七月二十一日ヨリ九月十九日ニ至ル)

但付屬小學校ニ限リ七月二十一日ヨリ八月二十日ニ至ル

第四條 師範學校ノ學科及其程度ノ配當ヲ定ムルコト別表ノ如シ

第五條 師範學校ニ於テハ一學年內ニ三回乃至六回臨時試業ヲ施行シテ生徒學業ノ

廿一年 縣令甲 第四十 號 改正

廿一年 縣令甲 第五十 號 改正

熟否ヲ試ミ坐次ヲ進退シ又學年末ニ學級試業ヲ施行シ其優劣ヲ判シ及第落第ヲ區別シテ學級ヲ定ムルモノトス

第六條 試業ハ點數ヲ以テ之ヲ判シ各學科一百點ヲ以テ定點トナス

但國語ノ文法作文英語ノ綴字習字讀法翻譯數學ノ筆算珠算代數幾何博物ノ植物動物礦物又地理歷史物理化學農業手工習字圖書ハ各一學科トシテ評點ヲ定ム

第七條 平素ノ行狀ニ依リ各生徒ノ行狀評點ヲ定メ臨時試業ノ際之ヲ算入スルモノトス

但定點ヲ一百トス

第八條 學級試業評點調査ノ方法ハ一學年內ノ各學科臨時試業評點ヲ平均シタルモノニ學級試業各學科ノ得點ニ合シ之ヲ折半シテ其學科ノ評點ヲ定ム

但第四年學級試業ニ於テハ該學級各學科試業得點ヲ二倍シ各學級試業ノ評點ニ合シ五ヲ以テ之ヲ除シ其學科ノ評點トナス

第九條 學級試業ノ評點各學科共ニ五十以上ニシテ平均六十以上ヲ得タルモノヲ及第トス

第十條 學級試業ニ於テ事故アリ欠席シ或ハ二學科不合格ノ生徒ハ學校長ノ見込ニ依リ再試業ヲナスコトヲ得

第十一條 第四年ノ試業ニ及第シタル生徒ニ授與スル證書ハ優等尋常ノ二等トシ各

學級評点七十以上ニシテ通約平均點八十以上ヲ優等トシ之ニ當ラサルモノヲ尋常トス

第十二條 第一年第二年第三年ノ學級試業ニ及第シタル生徒ニハ第一號書式ノ證書
 第四年ノ試業ニ及第シタル生徒ニハ第二號ノ證書ヲ授與スヘシ

第十三條 卒業ノ際坐次ヲ定ムル場合ニ於テハ操行點ノ優等ナルモノヲ上席トシ操行點同等ノモノハ試驗通約點ノ多分ヲ占ムルモノヲ以テ上席トス

第一號

證書

校印

族籍

姓名

年月日

尋常師範學科第二二年ノ修業ヲ證ス

茨城縣尋常師範學校

番號

第二號

證書

校印

族籍

姓名

年月日

當校ノ教科ヲ履修シ成規ノ試驗ヲ經テ尋常師範學科ヲ卒業ス

茨城縣尋常師範學校長姓名

印

番號

○尋常師範學校卒業服務細則
 茨城縣令乙第十五號 (明治十九年十二月十一日)

郡 役 所
 戶 長 役 場
 小 學 校

尋常師範學校卒業生服務細則左之通相定ム

○尋常師範學校卒業生服務細則

- 第一條 尋常師範學校卒業生服務規則第一條第二條ノ義務ヲ終ヘタルモノハ書式第一號第二號ニ據リ郡役所ヲ經テ縣廳ニ届出并ニ師範學校ヘ届出ツヘシ
- 第二條 事故アリテ制規ノ義務ヲ尽ス能ハサル者ハ薦舉人若クハ保證人ノ連署ヲ要シ郡役所ヲ經テ縣廳ノ指揮ヲ乞フヘシ
- 但疾病ニ罹ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
- 第三條 改氏名ハ勿論身分住居等ニ異動ヲ生スルトキハ其都度郡役所ヲ經テ縣廳ニ届出又師範學校ニ届出ツヘシ
- 第四條 任免轉校等總テ職務上ニ異動アルトキハ郡役所及ヒ師範學校ニ届出ツヘシ
- 第一號書式

義務濟御屆

某儀今般五年(十年)間ノ奉職義務完了候ニ付別紙經歷書相添此段御届仕候也

何郡何高等尋常小學校何等訓導

年號月日 氏名 印

知事(師範學校長)宛

第二號書式

經歷書

何郡何町何番地族籍

(寄留ナレハ寄留地ノ郡町村何番地ヲ記入ス)

氏名 印

生年月日

一何年何月何日何(府縣)何師範學校卒業

一何年何月何日ヨリ何年間何郡何小學校ニ奉職(其間轉任解職等ノ事アリ退項記載スヘシ)

○師範學校卒業生服務狀況報告規則

○茨城縣令乙第十六號 (明治十九年十二月十三日)

○茨城縣令乙第十六號 (明治十九年十二月十三日) 師範學校卒業生服務狀況報告規則左ノ通相定ム

戸長 役場

○師範學校卒業生服務狀況報告規則

第一條 本縣師範學校卒業生ニシテ教職ニ從事スルモノハ毎年二回其服務ノ狀況ヲ該學校ニ報告ス可シ

第二條 一ケ年ヲ前期後期トシ前期ハ九月ヨリ二月迄後期ハ三月ヨリ八月迄ト定ム

第三條 前期ハ三月廿日後期ハ九月廿日限リ服務ノ狀況ヲ報告スヘシ

第四條 服務ノ狀況ヲ報告スル者ハ左ノ要領ニ依リ取調ヘ差出ヌ可シ

第一 受持學科

第二 受持時間

第三 受持組數及人員

第四 生徒ノ總員及級數

第五 生徒試驗ノ成績

第六 賞罰ニ關スル事

第七 校舍ノ便否

第八 校中ノ庶務

第九 比較試驗ノ成績

第十 學區内人民ト學校トノ接際如何

○尋常師範學校教科用圖書假定

○茨城縣令甲第六號 (明治三十年一月廿九日)
茨城縣尋常師範學校ノ教科用圖書左之通假定ス

倫理

○圖書名

修身原論 著者名 譯者名
河津祐之譯
論語 朱熹集註

○教育

註如氏教育學 有賀長雄譯
學校管理法 伊澤修二著
日本教育史畧 大槻修二編
巴氏教育史 那珂通高訂
改正教授術 若林虎三郎編纂
幼稚園記 白井毅編纂
關信三譯
○國語
語彙別記 文部省編輯寮編纂
語彙活語指掌 文部省編輯寮編纂
和文讀本 稻垣千穎輯

日本文典

改本朝文範

文藝類纂 文志ノ部 中根淑著
消息文例 柳原芳野編
和文教科書 松屋主人著
下田歌子編輯

○漢文

正文章軌範 謝枋得批撰
史記 司馬遷著
謝選拾遺 賴襄選
○數學
算術教科書 田中矢德編
新珠算精法 一至三 駒野政和著
撰珠算精法 一至四 三冊 石川驊譯
代數學 四冊 田中矢德編輯
幾何教科書 上 登册 田中矢德編輯
○簿記

馬耳記簿法

○地理歷史

蘇氏地理書 小林備秀譯
撰中地理書 山田行元編述
蘇氏地理書 富士谷孝雄譯
國史案 一二二冊 木村正辭編
皇朝史畧 青山延干著
十八史畧 曾先之編次
明治元明清史畧 石村貞一編次
新刻(改正)萬國史畧 西村茂樹編輯
○博物
植物通解 矢田部良吉譯
動物通解 岩川友太郎編
金石學 佐々木忠四郎譯
弗氏生理書 和田維四郎譯
坪井爲春譯
○物理化學
士都華氏物理學 川村清一譯
羅斯珂氏化學 茂木春太譯

○農業手工

植物生育論 高山甚太郎譯
農用家畜論 磯野德三郎譯
シエレ一氏 大內健
勸業理財學 今井秀之助譯
○家事
婦女必讀家事要訓 山田要吉譯
家事經濟論 高橋是清譯
前田寅七郎編述
藤田久道編述
渡邊辰五郎編輯
○習字圖書
普通裁縫教授書 藤田久道編述
小學習書帖 文部省編輯局編
用器書法並圖式 平瀨作五郎纂譯
○音樂
小學唱歌集 文部省音樂取調掛編
唱歌掛圖 文部省音樂取調掛編

音樂問答

瀧村小太郎譯

(新撰)体操書

文部省体操傳習所編

樂典

神津元譯

体操教範

陸軍省編

音樂指南

內田彌一譯

步兵操典

陸軍省編

○体操

射的教程

陸軍省編

(新制)体操法

野外演習軌典

陸軍省編

○尋常師範學校生徒員數及薦舉法

○茨城縣令甲第十六號 (明治二十年二月二十二日)

文部省令第十號第十條第十一條ニ基キ本縣尋常師範學校生徒員數及薦舉方法左ノ通相定ム

尋常師範學校生徒員數及薦舉方法

第一條 薦學員數ハ各郡役所所轄内ニ於テ各二名水戸市役所所轄内ニ於テ一名トス

第二條 郡長ハ人物學力ヲ檢定シ左ノ資格ヲ有スル者ヲ薦舉ス可シ

一 身體強健ナルモノ

一 高等小學校卒業以上ノ學力ヲ備ヘ後日良教師タルノ見込アルモノ

一 年齡十七年以上二十年以下ナルモノ

一 所轄郡内在籍ノモノ

第三條 郡市長ニ於テ師範生徒ヲ薦舉スルトキハ本人ノ願書ヲ添ヘ毎年十二月限り

廿二年甲廿改十甲廿
面改正ノ號八
面更十甲廿
正四第第一面
ノ號八

廿二年甲廿改十甲廿
面改正ノ號八
面更十甲廿
正四第第一面
ノ號八

本縣尋常師範學校長ヘ送達スヘシ

第四條 郡市長ハ薦舉セシ者ヲシテ四月一日(日曜日ハ次)午前第八時本縣尋常師範

學校ヘ差出スヘシ

第五條 郡市長薦舉ニ係ル生徒ハ左ノ書式ニ依リ規約書ヲ郡長ニ差出スヘシ

規約書式

某儀今般貴官ノ御薦舉ヲ以テ茨城縣尋常師範學校ヘ入學相成候ニ付テハ卒業ノ後明治十九年文部省令第十一號第二條但書ニ從フハ勿論某ノ身上ニ關スル事件ハ保證人ニ於テ一切引受可申候依テ規約書如此候也

茨城縣何郡何町何番地住居若クハ寄留

何府縣華士族平民

誰何男女弟妹

年月日

入學志願者 姓名 印

茨城縣何郡何町何番地

茨城縣華士族平民

保證人 姓名 印

何郡何町何外何ヶ村聯合戶長

姓名 印

何郡市長何誰殿

○同上英語科教科用書圖書假定

○茨城縣令甲第十七號 (明治二十年二月二十二日)

茨城縣尋常師範學校ノ英語科教科用圖書左ノ通假定ス

英語

ニユーナショナルリーダー

ハルンス社著

スベンセリヤンレンマンシーグ

並出版

小文典

スベンセル著

ヘスチンク

ブロン著

マツコーレー著

修辭書

ヘーフン著

○尋常師範學校ヲ中學校及小學校生徒操行査定

○茨城縣令甲第十八號 (明治二十二年二月廿八日)

茨城縣尋常師範學校茨城縣尋常中學校及小學校生徒操行査定左ノ通相定ム

第一條 志操確實品行方正ナル者ヲ最上トシ以下之ニ準シ査定チナスヘシ

第二條 最終ノ學年末ニ於テ各學年ヲ得点ヲ通約シ百点以下八十点以上ヲ優等トシ

八十点以下ヲ尋常トシ卒業ノ際左ノ證書ヲ授與スヘシ

尋常師範學校卒業生

府縣華士族平民

校印

姓

年 月 日

生 名

在學中ノ操行ヲ査定シテ優等トス尋常

年月日

茨城縣尋常師範學校教頭姓名(印)

茨城縣尋常師範學校幹事姓名(印)

右審査ノ適當ナルヲ認メ茲ニ之ヲ

證ス

茨城縣尋常師範學校長 姓名(印)

番 號

簡易小學校

卒業生

尋常小學校

卒業生

高等小學校

姓

名

校印

府縣華士族平民

年月日 生
 在學中ノ操行ヲ査定シテ優等トス
 尋常
 簡易
 茨城縣尋常小學校長 姓名
 高等
 番號
 (校長欠員ナレハ首席訓等)

第三條 査定ニ關スル細則ハ校長之ヲ定メ知事ノ認可ヲ經ヘシ
 但シ小學校ニ在リテハ教員集會所ニ於テ決議一定ノ上認可ヲ經ヘシ

○第二款 尋常中學校

○茨城縣令甲第三拾貳號 (明治十九年十一月十六日)

茨城縣尋常中學校ニ於テ文部省令第十四號尋常中學校ノ學科及其程度ヲ實施スル方法左ノ通相定ム

○茨城縣尋常中學校ノ學科及其程度實施方法

第一條 中學校ノ學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル之ヲ一學級ノ修業期限トス
 第二條 中學校ノ授業ハ毎日五時間ト定ム

但土曜日ハ三時間トス

第三條 中學校ノ休業日左ノ如シ
 日曜日 書天祭日 祝日 冬季休業 自十二月廿五日 夏季休業 自七月廿一日 至翌年一月七日
 第四條 中學校ノ生徒募集ハ每學年ノ初メニ於テスルヲ常トスト雖トモ缺員アルト

第五條 中學校ノ學科及其程度ノ配當ヲ定ムルコトハ別表ノ如シ
 第六條 中學校ニ於テハ一學年內三回乃至六回ノ臨時試業ヲ施行シ生徒學業ノ熟否ヲ試ミ坐次ヲ進退シ又學年末ニ學級試業ヲ執行シ其優劣ヲ判シ及第落第ヲ甄別

第七條 試業ノ評點ハ各學科一百ヲ以テ定點トス
 第八條 評點ノ行狀ニ依リ各生徒ノ行狀評點ヲ定メ臨時試業ノ際之ヲ算入スルモ

第九條 但國語漢文ヲ講讀シ書取、作文第一外國語ノ讀方、譯解、書取會話、綴文、作文、文法、法辭、算學、算術、幾何、代數、三角法、博物(第一級)ノ動物、植物、各一學科

第十條 評點ノ附ス

第十一條 但定點滿二百點ニ達セズハ一學年內ノ各學科滿點ニ至ラズ

第十二條 但定點滿二百點ニ達セズハ一學年內ノ各學科滿點ニ至ラズ

第十三條 但定點滿二百點ニ達セズハ一學年內ノ各學科滿點ニ至ラズ

廿一年 第四號
 改正

廿二年 第五號
 改正

廿四年 第六號
 改正

○全上職員俸額表

○茨城縣令號外 (明治廿年二月十二日)

茨城縣尋常中學校職員、俸額左ノ通り相定ム

茨城縣尋常中學校職員俸額表

學校長月俸 百圓以下四拾圓以上

教諭月俸 七拾五圓以下三拾圓以上

助教諭月俸 三拾圓以下拾五圓以上

書記月俸 貳拾五圓以下拾圓以上

○全上職員職制

○茨城縣令甲第八號 (明治二十年二月十二日)

茨城縣尋常中學校職員職制左ノ通相定ム

○茨城縣尋常中學校職員職制

第一條 學校長ハ校務ヲ整理シ教諭以下ノ職員ヲ統督シ教室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌ル

第二條 教諭ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ教授教訓ノ事ヲ掌ル

第三條 助教諭ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ教諭ノ職掌ヲ助ク

第四條 書記ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五條 教諭以下職員ノ員數ハ學科ノ輕重生徒ノ多寡及事務ノ繁簡ニ應ジテ之ヲ定ム

○第三款 小學校

○茨城縣令甲第三十三號 (明治十九年十一月二十二日)

本縣小學校於於文部省令第八號小學校ノ學科及其程度實施ノ方法左ノ通相定ム

但教科用圖書ハ營分營ニ依ル

○小學校ノ學科及其程度實施方法

第一條 小學校ノ學年ハ四月一日ヨリ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル之ヲ一學級ノ修業期限トス

第二條 小學校ノ休業定日ハ日曜日大祭日祝日ノ外左ノ如ク

土曜日 二時三十分 但尋常小學校ニ限ル

冬季休業 自十二月二十五日 至翌年一月七日

夏季休業 自七月廿一日 至八月二十日

第三條 小學校ノ學科及其程度ハ別表ニ如ク

第四條 尋常小學校ニ於テハ土地ノ情況ニ因リ唱歌ノ一科ヲ設クルコトヲ得ヘシ其課程配當ハ表ニ示ス

但本表ニ於テハ管理者ヨリ其旨ヲ當應ニ伺出認可ヲ受ク

二十一年 甲第十號 改正

廿一年 甲第十號 改正

第五條 高等小學校ニ於テハ土地ノ情況ヲ因リ英語科ノ農業ノ二科ヲ設クヘシ其課程配當ハ英語科ヲ設クルトキハ甲號表ニ依リ農業科ヲ設クルトキハ乙號表ニ依

但本文ノ場合ニ於テハ管理者ヨリ其旨ヲ當廳ニ開申スヘシ

第六條 小學校ニ於テハ一學年内ニ三回乃至六回ノ小試業ヲ施行シ生徒ノ坐次ヲ進退シ又學年末ニ大試業ヲ施行シ其及第落第ヲ判シ學級ヲ定ムル者トス

第七條 試業ハ點數ヲ以テ之ヲ評シ各學科一百點ヲ以テ定點トス

但評點ヲ算スルニ小數ヲ生シタルトキハ四捨五入ノ法ニ依ル

第八條 小試業ニ於テハ各學科ノ得點ヲ平均シテ其評點ヲ定ムルモノトス

但修身科ハ試業得點ニ平素ノ行狀點(基數一百點)ヲ加ヘ折半シテ之ヲ定ム

第九條 大試業ニ於テハ試業各學科ノ評點ニ小試業ノ各學科平均點ヲ合シ之ヲ折半シテ其學科ノ評點トナス

第十條 大試業各學科ノ評點(小試業點ヲ合算セサルモノ)三十以上ニシテ平均點六十以上ヲ得タルモノヲ及第トス

第十二條 各等科第四年大試業及第シタル生徒ニ授與スル證書ハ優等尋常ノ二等トシ各學年大試業評點何レモ七十以上ニシテ通約平均八十以上ヲ優等トシ之ニ當ラザル者ハ尋常トス

二十二年
甲第二
號改五
增補正
ノ面

第十三條 各等科共ニ第一年第二年第三年ノ大試業ニ及第シタル生徒ニハ第一號書式ノ證書第四年ノ大試業ニ及第シタル生徒ニハ第二號書式ノ證書ヲ授與スヘシ第十四條 卒業ノ際坐次ヲ定ムル場合ニ於テハ操行點ノ優等ナル者ヲ上席トシ操行點同等ノモノハ試驗通約點ノ多分ヲ占ムル者ヲ以テ上席トナスヘシ

證書

族籍

姓名

年月生

校印

尋常科第二
年ノ修業ヲ證ス

年月日

茨城縣某高等小學校

番號

證書

族籍

姓名

年月生

校印

優等或尋常
(尋常高等)小學校ノ卒業ヲ證ス

年月日

茨城縣某高等小學校長姓名

番號

(校長欠員ノ時
首席訓導)

印

○茨城縣令甲第卅九號(昭和十一年十一月廿七日)

○學齡兒童就學規則

○茨城縣令甲第卅五號 (明治十九年十一月廿七日)

勅令第十四號小學校令第四條ニ基キ學齡兒童就學規則左之通相定ム

○學齡兒童就學規則

- 第一條 父母後見人等ハ毎年十二月限り翌年四月迄ニ學齡ニ入ルヘキ兒童ノ住所氏名族籍誕生ノ年月日及就學セシムヘキ學校ヲ記載シ兒童現住地ノ戸長ニ届出ヘシ
- 第二條 戸長ハ前條ノ學齡届書ヲ調査シ之ヲ學齡簿ニ記載シ其届出テ未済ノモノハ其父母後見人等ヘ通告シ第一條ノ手續ヲ爲サシムヘシ
- 但學齡簿ハ第一號雛形ニ照準調製スヘシ
- 第三條 父母後見人等ハ學齡兒童ヲ就學セシムル能ハサルキハ其事由ヲ記載シタル猶豫願書ヲ戸長ニ差出スヘシ
- 第四條 戸長ハ前條ノ猶豫願書ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ審査シ之ニ當否ノ意見ヲ付シ郡長ニ差出シ郡長ニ於テ之ヲ取扱フヘシ
- 第五條 就學ヲ猶豫スヘキモノハ概テ左ノ各項ニ準ズヘシ
 - 一 身體ノ發育充分ナラサルモノ
 - 一 疾病ニ罹リタルモノ
 - 一 一家貧窮ナルモノ

一止ヲ得サル事故アルモノ

- 第六條 前條各項ニ據リ就學ヲ猶豫ナシ與フルヲ得ルト雖モ其期限ハ滿一ケ年トス
- 第七條 就學猶豫ノ許可ヲ得タル者期限滿期ニ至リ就學セシムルトキハ其旨戸長ニ届出ツヘシ但シ滿期后直チニ就學セシムルヲ能ハス尙ホ延期ヲ請ハントスルモノハ第三條ニ準シ出願スヘシ
- 第八條 未ダ尋常小學校ヲ卒業サル學齡兒童ノ他ノ學區ニ轉住セントスルトキハ父母後見人ヨリ其旨戸長ニ届出第二號雛形ノ學齡兒童通知書ヲ得テ之ヲ新住地ノ戸長ニ届出ツヘシ
- 第九條 未ダ尋常小學校ヲ卒業サル學齡兒童ノ他ノ學區ヨリ轉住シタルトキハ父母後見人等ヨリ其就學セシムルモノハ第一條届書其就學セシムルモノハ第一條届書其就學セシムルモノハ第三條ニ準シ願書ヲ差出スヘシ但既ニ舊住地ニ於テ就學延期ノ許可ヲ得タルモノハ其旨新住地戸長ニ届出ツヘシ
- 第十條 就學兒童ノ故ナクシテ欠席久シキニ及フ者ハ學校長教員ヨリ戸長ニ通知シ戸長ニ於テハ其父母後見人ニ對シ其理由ヲ取調フヘシ

第一號

茨城縣何國何郡何町學齡簿

學齡兒童姓名	郡町村	學齡ニ入ル	學齡ニ終ル	就學	事故猶豫及滿期ノ別	天然痘種痘既未濟年	族籍職業
誕生年月	番地住年	月	年	月	何々事故ニ依何年何月ヨリ何月間猶豫滿期	何年何月	父母後見人姓名

第二號

學齡兒童通知書

茨城縣何國何郡何町村何番地

族籍

父母誰何男女或ハ後見人何ノ誰

弟妹甥姪等

姓

年

名

齡

就學未就學或ハ猶豫等年月事由
右相違無之候也

年月日

何府縣何郡何町村役場御中

茨城縣何國何郡何町村

戸長 役場

○小學校授業料規程

○茨城縣令甲第三十六號 (明治十九年十一月廿七日)

勅令第十四號小學校令第六條ニ基キ小學校授業料規程左之通相定ム

小學校授業料規程

第一條 小學校授業料ハ後條ニ指示スル所ノ範圍ニヨリ管理者ニ於テ其額ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第二條 授業料ハ一人一ヶ月ノ額尋常小學校ニ於テハ五錢以上五拾錢以下トシ高等小學校ニ於テハ貳拾錢以上壹圓以下トス

第三條 授業料ノ額ハ貧富ニ應ジ等差ヲ立ツルコトヲ得

第四條 一家二名以上就學スルトキハ授業料ヲ輕減スルコトヲ得

第五條 授業料ハ通貨ヲ以テ徵收スルヲ法トスルモ土地ノ情況ニ依リ穀物其他ノ生産物ヲ以テ之ニ代フルモ妨ケナシ

第六條 授業料ハ一月若クハ數月若クハ數週日ヲ一期トシ之ヲ前納セシムヘシ

第七條 小學簡易科ニ在リテ品行最モ良ク學力最モ優レタル者ハ授業料ヲ徵セズシ

テ尋常小學校へ入學セシムルコトヲ得

但其人員ハ該尋常小學校兒童ノ百分ノ七以上ニ上ルコトヲ得ス

第八條 尋常小學校ニ在リテ品行最モ良ク學力最モ優レタル者ハ授業料ヲ徴セスシ

テ高等小學校ニ入學スルコトヲ許スヘシ

但其人員ハ該高等小學校兒童百分ノ七以上ニ上ルコトヲ得ス

○茨城縣令甲第三十七號 (明治十九年十一月廿七日)

勅令第十六號第三條ニ基キ學校設置廢止規則左ノ通相定ム

學校設置廢止規則

第一條 小學校ノ設置區域及位置ヲ指定シタル者ハ左ノ設置要項ヲ具シテ認可ヲ受

クヘシ

一 資産 積金學田等及其收益ノ豫算

一 授業料 収入ニ屬スヘキ授業料ノ豫算

一 町村補助費 要スル所ノ補助ノ豫算

一 俸給 教員給及諸給付充テテ豫算

一 諸費 校舍修繕及書籍器械其他總テノ諸費ニ充ツヘキ豫算

一 生徒數 入學スヘキ生徒ノ概數(男女別分記)ハ左ノ通相定ム

一 校舍及敷地 校舍敷地ノ全圖及教場運動場等精細ノ圖面ヲ別紙ニ製シ并ニ校

有ト借用トノ別ヲ記ス

第二條 小學校ニアラサル學校ヲ設置セントスルトキハ左ノ要項ヲ具シテ認可ヲ受

クヘシ

一 設置ノ目的 設置ノ要旨ヲ記ス

一 名稱 何學校

一 位置 國郡町村番地

一 教則 學科學期課程教科用書及試驗法ヲ別紙ニ記ス

一 校則 入學退學ノ規則休日生徒心得生徒罰則寄宿舍規則及職員心得等別紙ニ

記ス

一 校舍及敷地

一 書籍器械

一 生徒數

一 教員 教員ノ數其人名履歷及俸額ヲ別紙ニ記ス

一 諸費

一 資産

一 授業料 右各項中第一條各項ト同シキモノハ之ニ準シテ記載スヘシ

第三條 前條ノ學校ニシテ小學校ト均トシキ普通教育ヲ兒童ニ施サントスルモノハ前條設置要項ノ内設置ノ目的ヲ除キ又教則校則ハ知事ノ規定セル小學規則ニ據リ其要項ヲ取調認可ヲ受クヘシ

第四條 幼稚園書籍館ヲ設置セントスルトキハ左ノ要項ヲ取調へ認可ヲ受クヘシ
幼稚園
名稱位置資産經費幼兒ノ概數保育課程園則保母ノ數其履歷俸給教科ノ書籍器具器械家屋教室
書籍館

名稱位置資産經費館場館則書籍及縱覽規則

第五條 學校幼稚園書籍館ヲ變更廢止セントスルトキハ町村立ニ係ルモノハ其理由及資産處分方ヲ具シテ認可ヲ受クヘシ私立ニ係ルモノハ開申スヘシ

○小學校教員學力檢定試驗細則

○茨城縣令甲第三十八號 (明治十九年十一月廿九日)

文部省第十二號小學校教員免許規制第十六條ニ基キ小學校教員學力檢定試驗細則左之通相定ム

○小學校教員學力檢定試驗細則

第一條 小學校教員學力檢定試驗ハ毎年五月一日(日曜日ハ次)ヨリ本縣尋常師範學校校ニ於テ執行スルモノトス

但時宜ニ依リ他ノ場所ニ於テ試驗スルモノトス

第二條 各學科學力檢定試驗圖書ハ茨城尋常師範學校教科用圖書ニ據ル

第三條 學力檢定試驗ヲ受ケント欲スル者ハ毎年三月十五日限リ第七條書式ノ願書及履歷書ヲ所屬郡役所ニ差出スヘシ

第四條 郡長ハ毎年三月三十一日限リ前條ノ願書及履歷書ヲ取纏メ品行等ヲ審査シ意見ヲ付シテ知事ニ具申スヘシ

第五條 學力檢定試験ヲ受ケントスル者ハ手数料金壹圓ヲ其願書ト共ニ所屬郡役所ニ納ムヘシ

第六條 受験中疾病事故ニ依リテ試験ヲ中止シ及ヒ不都合ノ所爲アリテ退場セシメラレタルモノト雖モ前條ノ手数料ハ返付セズ

第七條 願書式左ノ如シ

小學校教員學力檢定試驗願

某儀小學校教員志願ニ付何學科御檢定ノ上免許狀御下付相成度別紙履歷書相添此段奉願候也

何府縣郡區町村番地

廿七年甲 廿六年甲 廿五年甲 廿四年甲 廿三年甲 廿二年甲 廿一年甲 廿九年甲 廿八年甲 廿七年甲

年月日

前書ノ通願出候ニ付本人品行等取調候處小學校教員免許規則ニ觸ルノ所爲無之者ニ付與書調印仕候也

何 某 印

茨城縣知事何某殿

前書ノ通願出候ニ付本人品行等取調候處小學校教員免許規則ニ觸ルノ所爲無之者ニ付與書調印仕候也

何郡町村戸長

何 某 印

履歷書式(別紙ニ認ム)

履 歷 書

何府縣族籍

何

某

生所何府縣郡區町村
在籍(寄留)何府縣郡區町村番地

學業

職業

賞罰

○茨城縣令甲第三十九號 (明治十九年十一月二十九日)
文部省令第十二號小學校教員免許規則第十四條ニ基キ小學校教員及小學校授業生免許規則左ノ通相定ム

第一條 小學校授業生免許規則
一 小學校簡易科教員及小學校授業生ヲラント欲スル者ハ左ノ諸項ニ隨ヒ學力檢定ノ上免許狀ヲ授與スヘシ
一 小學校簡易科教員ハ年齡二十年以上小學校授業生ハ年齡十八年以上タルヘシ
一 品行端正性資善良ニシテ文部省令小學校教員免許規則第十二條各項ニ牴觸セザルモノ

第二條 學力檢定ハ左ノ科目程度ニ依リ試檢スルモノトス

小學簡易科教員及小學校授業生試驗科目程度

- 一 修身 彝倫道德ノ要旨
- 一 讀書 漢文漢字交リ文
- 一 作文 漢字交リ記傳及公私日用文
- 一 習字 楷行草
- 一 算術 珠算加減乘除筆算諸比例
- 一 地理 本縣及本邦地理ノ大略
- 一 歷史 本邦歷史ノ大略
- 一 教育學 授業法管理法
- 一 体操 矯正術徒手運動

第三條 學力檢定願及檢定試驗ノ場所期日等ハ小學校教員學力檢定試驗細則ニ據ル

第四條 小學簡易科教員及小學校授業生免許狀ハ別紙第一號第二號雛形ニ據ル

第五條 小學簡易科教員免許狀ハ小學校授業生小學校授業生免許狀ハ小學簡易科教員タルノ効アルモノトス

但年齡ハ第一條ニ依ル

第六條 免許狀ノ効力ハ各三ヶ年ヲ限リトス期滿ル毎ニ勤務ノ經歷ニ依リ適任ノ者ト認ムル前ハ更ニ免許狀ヲ授與スベシ

廿一年 甲第八號 加九號 面

第七條 學力檢定試驗免許狀授與及免許狀書換手續料等ハ小學校教員學力檢定試驗細則并小學校教員免許狀授與手續ニ據ル

但上納手續等ハ全則ニ據ル

第一號免許狀

免許狀

族籍

姓

名

何年何月生

右ハ明治何年何月何日ヨリ明治何年何月何日迄ニヶ年間小學簡易科教員タルヲ免許ス

明治何年何月何日

茨

城

縣

番號

第二號免許狀

免許狀

族籍

姓

何年何月生

右ハ明治何年何月何日ヨリ明治何年何月何日迄ニヶ年間小學簡易科教員タルヲ免許ス

許狀書式
年間小學校授業者タルヲ免許ス
明治何年何月何日
茨城縣
番號

○小學校教員免許狀授與手續

○茨城縣令甲第四十號 (明治十九年十一月二十九日)

文部省令第十二號小學校教員免許規則第十五條ニ依リ小學校教員免許狀授與手續左ノ通相定ム

○小學校教員免許狀授與手續

第一條 本縣尋常師範學科卒業及小學校教員學力檢定合格ノ者ハ制規ノ免許狀ヲ授與ス

第二條 免許狀ヲ受クルモノハ其手数料金五拾錢ヲ所屬郡役所ヘ納ムヘシ

第三條 免許狀ノ期滿ル毎ニ勤務ノ經歷ニ依リ更ニ免許狀ヲ授與スルモノハ手数料ヲ納ムルニ及ハス

第四條 免許狀ヲ授與セシ者ノ氏名ハ之ヲ管内ニ公告スヘシ

第五條 免許狀ヲ毀損紛失シ又ハ氏名族籍ノ變換ニ依リ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ具シ郡役所ヲ經テ縣廳ニ出願スヘシ

廿一年
甲第十
號改正
ノ面

第六條 前條ノ場合ニ於テハ手数料金三十錢ヲ納ムヘシ

○小學校々則

○茨城縣令乙第十一號 (明治十九年十二月十日) 郡役所 戶長役場 小學校

小學校々則左之通相定ム

○小學校々則

第一章 通則

第一條 小學校ハ學齡兒童ニ普通教育ヲ授クル所トス

第二條 入學スヘキ兒童ハ種痘又ハ天然痘ヲ經タル者トス

第三條 入學期ハ毎年四月一日ヨリ九月十五日ヲ限リトス

但轉校ノ者ハ此限リアラス

第四條 兒童ヲ入學セシメントスルキハ父母若クハ後見人ヨリ條末第一號書式ノ證書ヲ出スヘシ

但入學ノ後父母後見人等住居ヲ移轉スルトキハ其旨届出ツシ

第五條 寄留人入學セントスルトキハ學區内ニ於テ保證人ヲ立ツ可シ

但保證人移住スルキハ前條但書ト同様タルヘシ

第六條 休學一週間以上ニ至ルトキハ其事由ヲ届出ツヘシ

但五十日以上ニ至レハ父母後見人若クハ保證人ヨリ事由ヲ詳具シ戶長ノ承認ヲ

廿一年
乙第十
號改正
ノ面

經テ届出ツ可

第七條 學科卒業ノ後ハ父母後見人若クハ保證人ヨリ條末第二號書式ノ届書ヲ出ス

第八條 課業中他人ハ勿論父母ヲカト雖モ教師ノ許可ナク直チニ生徒ニ應接スルコト

ヲ得ス

第九條 年中休日ヲ定ムル左ノ如シ

日曜日 大祭日 祝日 鎮守祭(小學校所在ノ町村) 夏季休業 七月廿一日ヨリ

冬季休業 十二月二十六日ヨリ 全八月廿一日迄

第十條 事故アリ臨時休校スルトキハ其日數ニ週間以内ハ郡長へ一週間以外ハ知事

へ其事由ヲ詳具シ認可ヲ經ヘシ

但知事へ上申スルハ郡長ヲ經由スルモツトス

第十一條 毎日ノ課業ハ午前第九時ニ起リテ午後三時ニ終ル夏季休業ノ前後二十日

間ハ午前第七時ニ起リテ午前第十二時ニ終フヘシ

但本文ノ時間ヲ變換セントスルトキハ郡長ノ認可ヲ經ヘシ

第二章

生徒心得

第十二條 參校ハ毎日起業時限十分前タルヘシ若シ受業ノ時限ニ後レタルトキハ其

事由ヲ陳ヘ教師ノ指圖ヲ待ツヘシ

第十三條 受業ノ時限至レハ扣席ニ着シ教師ノ指圖ヲ受クヘシ

第十四條 受業中發言セントセルハ手ヲ舉テ教師ノ許可ヲ得テ言フヘシ

第十五條 教場へハ雨衣襟卷ヲ纏ヒ或ハ冠帽ノ儘入ル可カラズ

第十六條 自己ハ勿論一家内ニ傳染症ノ病ニ罹リシモノアルトキハ全快マテ昇校ス

ルコトヲ得ス

第十七條 學校へハ課業用品并行厨ノ外食品及無益ノ玩物等ヲ携帯スヘカラス

第十八條 書籍器具等猥リニ貸借スヘカラス

第十九條 教師ノ教訓ニ乖戾シ若クハ不良ノ所爲アルトキハ譴責ヲ加ヘ或ハ終業后

一時以内留置シ又ハ昇校ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十條 校中ノ物品ヲ破損セントキハ相當ノ代價ヲ償還スルモノトス

但其情狀ヲ酌量シ償還セシメサルコトアルヘシ

第三章

參觀人心得

第二十一條 參觀ヲ望ム者ハ名刺ヲ通シ又ハ氏名ヲ申出校員ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十二條 教場ニハ雨衣襟卷ノ儘入ルヘカラス

第二十三條 參觀中ハ起止靜肅生徒ノ氣ヲ散亂ヒシメサル様注意スヘシ

第二十四條 教場ニ在テハ喫烟談話ヲ禁ス

第二十五條 教授上不審ノ件アルハ課業終リシ後質問スヘシ

廿三年乙
第七號改
正ノ面

廿一年乙
第十一號
加但書
面